

設置の趣旨等を記載した書類

目次

はじめに 南山大学の建学の理念と教育研究の実践	1
1. 国際教養学部設置の趣旨及び必要性	1
2. 国際教養学部の特色	3
3. 国際教養学部の名称及び学位の名称について	4
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	4
5. 教員組織の編成の考え方及び特色	9
6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	10
7. 施設、設備等	16
7-1. 校地、運動場の整備計画	
7-2. 校舎等施設の整備計画	
7-3. 図書等の資料及び図書館の整備計画	
8. 入学者選抜の概要	18
8-1. アドミッション・ポリシー	
8-2. 入学試験・審査形態及び入学試験科目	
9. 海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画	20
9-1. 実習先の確保の状況	
9-2. 実習先との連携体制	
9-3. 成績評価体制及び単位認定方法	
9-4. その他特記事項	
10. 編入学定員を設定する場合の具体的計画	23
10-1. 既修得単位の認定方法	
10-2. 履修指導方法	
10-3. 教育上の配慮等	
11. 管理運営	24
12. 自己点検・評価	25
13. 情報の公表	26
13-1. 大学の教育研究上の目的に関する事	
13-2. 教育研究上の基本組織に関する事	
13-3. 教員組織、教員の数ならびに各教員が有する学位及び業績に関する事	
13-4. 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業または修了した者の数ならびに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事	
13-5. 授業科目、授業の方法及び内容ならびに年間の授業の計画に関する事	
13-6. 学修の成果に係る評価及び卒業または修了の認定に当たっての基準に関する事	

設置の趣旨等を記載した書類

はじめに

南山大学の建学の理念と教育研究の実践

南山大学を設置する南山学園は、カトリック神言修道会を設立母体として、「キリスト教世界観に基づく教育を行う」ことを建学の理念とし、「人間の尊厳のために (Hominis Dignitati)」を教育モットーに掲げ、昭和7年に創設された。平成7年には聖霊奉侍布教修道女会を設立母体とする名古屋聖霊学園と、平成28年4月には、聖心の布教姉妹会を設立母体とする聖園女学院と法人合併を行い、現在の南山学園に至っている。

南山大学では、この建学の理念を実現するために、学究的探求の精神、キリスト教精神に基づく価値志向、普遍的価値を希求する国際性の涵養、地域社会への奉仕という4つの教育信条を達成することを目標に掲げて教育を行ってきた。昭和24年に文学部1学部の大学として開学して以来、建学の理念に基づき人材を養成してきた。その後、社会の状況を踏まえ、計画的に学部及び大学院を増設し、現在では名古屋市と瀬戸市のキャンパスに、人文学部、外国語学部、経済学部、経営学部、法学部、総合政策学部、理工学部の7学部、及び人間文化研究科、国際地域文化研究科、社会科学研究科、ビジネス研究科、法務研究科（法科大学院）、総合政策研究科、理工学研究科、数理情報研究科の8研究科を擁するに至った。その結果、現在では、文科系、理科系双方の分野で、教育と研究を実践する総合大学となっている。

平成19年3月には本学の20年後の将来像を描いた「南山大学グランドデザイン」を策定し、「個の力を、世界の力に。」というビジョン・キーフレーズを設定した。世界から選ばれ、世界に人材を輩出し、地域に根ざしかつ世界に開かれた大学となることを中期的な目標として掲げ、教育・研究の不断の改革・拡充をはかってきた。なお、学生の利便性並びに教育の人的資源の集中などを目的として、平成29年4月にはすべての学部・研究科を名古屋市のキャンパスに統合し、全学部を一体として運営する。

1. 国際教養学部設置の趣旨及び必要性

平成20年12月の中央教育審議会の答申「学士課程教育の構築に向けて」に

示されているとおり、21 世紀型市民に求められる教養教育を行うことは大学の重要な使命の一つである。さらに、日本学術会議から平成 22 年 4 月に公表された「21 世紀の教養と教養教育」と題された提言においては、21 世紀の大学に求められる教養教育とは、国民国家の枠組みにとどまらない現代の国際社会における諸問題を国際的視点から解決する価値を創造できる人材を育成するものと位置付けられている。

さらに「産学官によるグローバル人材育成のための戦略」（平成 23 年 4 月 28 日）に示されているように、「世界的な競争と共生が進む現代社会において、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、広い視野に立って培われる教養と専門性、異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性、新しい価値を創造する能力、次世代までも視野に入れた社会貢献の意識などを持った人間」を育成していくことが求められている。

いいかえれば、異文化の他者との相互理解を促進し、急速に進むグローバル化の進展に対応するために、国・地域の枠を超え、多元的価値観を尊重し、持続可能な社会の構築のための国際教養を身につけた実践的な国際人を育成することが、今日の大学に期待されている重要な役割となっているといえる。

新設する国際教養学部は、こうした社会的要請・必要性に応えるべく構想されたものである。本学では、「ローカルに生起する問題を理解するためにグローバルな視点からアプローチすることによって、多文化共生社会の実現と持続可能な社会の構築を目指すための学問」として「国際教養学」を定義する。それによって 21 世紀の教養の核となる「技法知」「実践知と市民的教養」「学問知」を涵養し、21 世紀に期待される国際教養学に関する教育研究に取り組む。これにより、持続可能な社会づくりや地域を超えたグローバルな視点で教育する国際教養学の分野に対する中部地域の高校生への期待に応えるための学部学科としての役割を担う。つまり国際教養学部では、環境、高齢化、宗教対立、民族紛争等などの 21 世紀市民社会における問題解決に取り組んでいくことができ、地球規模で思考できる人材、ならびに優れたコミュニケーション能力と異文化理解力を基に国際社会及び地域社会に貢献できる実践的な人材を養成することを旨とする。具体的には、国際機関、多国籍企業、国際的な NPO や NGO など、環境、高齢化、宗教対立、民族紛争等などの問題解決に取り組むこと、さらには、地域社会の行政組織や民間団体において、多様な文化的背景を持つ人々と協働

し、その地域の持続可能性を高めていくことに貢献できるような人材である。

この目的を達成するために、国際教養学部では①人文科学に基礎を置き、グローバルな視点からローカルに生起する問題を理解するための「グローバル・スタディーズ」(Global Studies)を主たる軸とし、②持続可能な社会の構築のための「サステナビリティ・スタディーズ」(Sustainability Studies)を従たる軸として教育する国際教養学をその核とした教育課程を編成する。それによって「世界から地域へ」という視点に立つ国際社会・地域社会についての教育・研究を行う。

2. 国際教養学部の特徴

グローバル化が進む現代社会では、特定の国・地域に特化した視点や、従来の学問領域では的確に捉えられないような地球規模の問題が多くみられるようになってきている。例えば、世界各地で勃発する民族問題では、当該国の歴史・文化・政治・経済を理解するだけでなく、グローバルな視点から人口流動・移民政策・社会構造・経済格差等を多角的に分析することが必須である。このような21世紀市民社会における問題解決に取り組んでいくことができ、地球規模の思考を可能にするための教育が必要である。また、日本においても、文化・障がい・人種・宗教・性的志向性などの多様性を認めながら生きていく多文化共生社会が目指されている。ローカルとグローバルのつながりを意識しながら文化・社会・地域の持続可能性(sustainability)について関心を払うことも、21世紀型市民として必要な教養となっている。

このような教育を行うために、国際教養学部では、①人文科学に基礎を置きグローバルの視点からのアプローチを教育する「グローバル・スタディーズ」を主軸とし、②持続可能な社会の構築について教育する「サステナビリティ・スタディーズ」を従たる軸として教育課程を編成する。「グローバル・スタディーズ」の目的は、グローバリゼーションが進む現代社会の様態を文化の変容、言語や民族の問題、人の移動、メディアの役割の変化、宗教対立などの観点から理解し、変化し続けるグローバルな動向を人文科学を基に分析し、そのメカニズムを解明することである。「サステナビリティ・スタディーズ」の目的は、貧困、飢餓、経済的格差、環境問題、国際関係などの様々な現代社会の課題を人文科学及び社会科学の学問領域から理解し、持続可能な社会を実現するため

の可能性を見つけることである。国際教養学部では、この「サステナビリティ・スタディーズ」に人文科学の知見と考え方を取り入れ従たる軸にすることによって、世界規模で発生し刻々と変化する様々な問題や課題の探求を目指す「グローバル・スタディーズ」が実体を伴った領域となる。

具体的には、「市民的教養」を「シティズンシップ論 A / Citizenship A」や「多元文化論 A / Multiculturalism A」などの「市民的教養の基礎科目」によって獲得させるとともに、「学問知」を「創造的・批判的思考 / Creative and Critical Thinking」や「文化論 / Cultural Studies」などの「学問知の基礎科目」によって獲得させる。また、「技法知」を外国語教育ならびに情報関連教育によって獲得させるものとする。さらにこれらの「市民的教養」と「学問知」ならびに「技法知」教育を基礎とし、事例としての地域研究や PBL ならびに卒業論文研究を通して「実践知」の獲得を促す。

以上要約すると、国際教養学部においては、21 世紀の情報・知識基盤型社会で活躍するための批判的思考・情報リテラシー等のスキルならびに他者との相互理解を促進するためのコミュニケーション能力育成を基盤としつつ、文化・制度の垣根や境界を乗り越えて異なるイデオロギーや価値観を尊重し、持続可能な社会の実現に向けて積極的に行動できるような人材育成を行う。

3. 国際教養学部の名称及び学位の名称について

ローカルに生起する問題を理解するためにグローバルな視点からアプローチする国際性 (Global Studies) を備え、多文化共生社会の実現と持続可能な社会の構築を目指す 21 世紀型市民的教養 (Liberal Arts) を涵養することを中心に教育・研究を行うことから、学部の名称を「国際教養学部」(英語名称: Faculty of Global Liberal Studies) とする。

学位の名称は、上記の教育・研究の目的に基づき、学士 (国際教養学) (英語名称: Bachelor of Arts in Global Liberal Studies) とする。

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

このような国際教養学を教授するために、つまり人文科学を中心にした教養教育を統合的に教授し、国際教養学部が目指す人材を育成するために、国際教養学部を、細分化せずに国際教養学科 (英語名称: Department of Global Liberal Studies) の 1 学科から構成し、以下のような教育方針に基づき教育課程を編成

する。

(1) 教育課程編成の基本方針

- ・ 教育課程は、共通教育科目と学科科目で編成する。
- ・ 卒業要件を 124 単位とし、共通教育科目を 31 単位以上、学科科目を 87 単位以上、自由選択科目を 6 単位以上履修することとする。
- ・ 共通教育科目は、宗教科目、情報倫理科目、「人間の尊厳」科目、外国語科目、体育科目、基盤・学際科目、英語展開科目、スポーツ科目、実践知形成科目で編成する。
- ・ 学科科目は、国際教養学基礎科目（技法知の基礎科目、市民的教養の基礎科目、学問知の基礎科目）、グローバル・スタディーズ科目、サステイナビリティ・スタディーズ科目、演習科目、実践知形成科目で編成する。

(2) 教育課程の概要

①共通教育科目。専門領域にとらわれない幅広い学問知識を身につける本学の共通科目では、必修科目として宗教科目、体育科目、情報倫理科目、選択必修科目として「人間の尊厳」科目、外国語科目、基盤・学際科目、選択科目として英語展開科目、スポーツ科目、実践知形成科目、情報科目によって編成する。カトリック大学としての特色ある科目である「宗教科目」と「人間の尊厳科目」によって本学の教育モットーである「人間の尊厳のために」の精神を涵養する。体育科目はチームティーチング制により、異なる特性を持つ運動・スポーツを組み合わせた実習を行う。情報倫理科目では、1年次の必修科目として、情報ネットワークを安全かつ有効に利用するためのモラルや関連する法律について学ぶ「情報倫理」を設ける。外国語科目では、1年次に英語の基礎的な科目を履修し、2、3年次は第2外国語としてフランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、インドネシア語を選択必修科目とする。英語科目には選択科目として英語展開科目をおき、中級・上級者向け科目を配置する。基盤・学際科目では、系統だった学びを意識させるために思想と文化・芸術、歴史と世界、社会と経済・法律、自然と環境、科学と情報を総合的に配置するとともに、新たに本学の歴史について学び、母校に対する理解を深めるための講義科目「南山大学の軌跡」を設ける。実践知形成科目は、インターンシップや企業による帯講座を配置するキャリア教育科目と、短期留学プログラムに単位を付与して授業科目とする海外研修科目から構成している。

②学科科目。学科科目にある国際教養学基礎科目は基礎的な教養教育であり、「技法知の基礎科目」「市民的教養の基礎科目」「学問知の基礎科目」の3つの科目群から構成される。「技法知の基礎科目」では、情報・知識基盤型社会に対応する21世紀型スキルとして強調されている批判的思考、学び方の学習、情報リテラシー等のスキルの鍛錬を行うとともに、他者との相互理解・交渉を行うための外国語（主として英語）によるコミュニケーション能力を養う科目を1, 2年次の必修科目として配置し、2年次の第2クォーターに配置する英語圏大学での短期留学まで集中的な英語教育を行う。「市民的教養の基礎科目」では、「シティズンシップ論 A/ Citizenship A」や「多元文化論 A/Multiculturalism A」を留学前に学び、留学中には英語によってそれらの内容について学びを深める。基礎的なアカデミック・スキルを、より創造的な思考ができる能力へと高めていくとともに、2年次からは教養教育の基礎を形成する「文化論/ Cultural Studies」「文学/ Literature」「民族学/ Ethnology」「メディア論/ Media Studies」「経済学/ Economics」「法学/ Legal Studies」などの「学問知の基礎科目」を講義と議論を組み合わせて運営できるクラスサイズで開講し、学生の興味に合わせて選択的かつ系統的に学ばせる。

そしてグローバル・スタディーズ科目では、グローバリゼーションが進む現代社会の様態を文化の変容、言語や民族の問題、人の移動、メディアの役割の変化、宗教対立などの観点から理解するための科目から構成している。一方、サステナビリティ・スタディーズ科目では、様々な現代社会の課題を様々な学問領域から理解し、持続可能な社会を実現するための可能性を探る科目から構成している。演習科目は、3年次は課題解決型学習(Project-Based Learning)を行う3グループの「PBL 演習」と専門性を備えた多様な学びを提供する4グループの「基礎演習」から構成し、4年次は3年間の多様な国際教養学科目の学修を統合するための「卒業論文研究」を主として構成している。地域研究科目は、地域研究を基礎としてグローバルな文化・社会研究を行うための外国語学部の共通科目B群から選択して学ぶ科目群である。実践知形成科目は、「基礎演習」担当教員が実施する世界各地で実施する選択科目としての「GLS フィールドワーク/ GLS Fieldwork」から構成している。

(3) 教育の特色

①外国語教育。外国語教育においては、複数の言語を学ぶことが多様な価値

観や文化の相対性を理解するために重要であると考え。そこで日本語・英語のほかに第二外国語を学習させることによって、欧州評議会が提案している複言語主義(Plurilingualism)に基づく3言語を使用できる能力を涵養する。目標とする到達レベルは、欧州共通参照枠(CEFR: Common European Framework of Reference for Languages)による基準において、日本語到達度は、論拠も論点も一貫して自然に、流ちょうかつ正確に自己表現ができるというC2レベル、英語到達度は、不自由を感じることなく、会議などの公的な場面で複雑な見解を説明できる能力があるC1レベルとする。また、第二外国語は、母語とする人と違和感なく会話ができ詳細な情報を正確に伝達できるB2レベルを目標とする。また、2年次第2クォーターでは英語圏への短期留学を原則全員に義務づけ、留学先では英語を通して国際教養学に関する科目を履修させることにより、早い段階から国際教養学の技法知、学問知、実践知をバランスよく体得し、それ以降の学修を効果的に進められるようにする。

②専門教育。専門教育は、国際教養学を一貫して教授することを目的とした編成となっている。その目的を達成するために主たる軸としての「グローバル・スタディーズ科目」、従たる軸としての「サステイナビリティ・スタディーズ科目」の二つの科目群を置き、それらを通して発展的、実践的に国際教養の学びを深めた後、学生一人一人が課題を見つけ卒業論文研究へと進むことができる編成としている。

まず「国際教養学概論/ Introduction to Global Liberal Studies」において、ローカルに生起する問題を理解するためにグローバルな視点からアプローチすることの必要性、多文化共生社会の実現と持続可能な社会の構築が現代社会に肝要であることを学ぶ。次に、「必修科目」として1年次に「グローバル・スタディーズ概論 A/Introduction to Global Studies A」と「サステイナビリティ・スタディーズ概論 A/Introduction to Sustainability Studies A」によって二つの視点が国際教養学において重要なアプローチとなることを学ぶ。その上で、主軸の「グローバル・スタディーズ科目」を「必修科目」(「グローバル化と文化・文学/ Globalization, Culture, and Literature」、 「グローバル化と民族・宗教/ Globalization, Ethnicity, and Religion」等)と「基幹科目」(「Special Topics: Global Studies B (Cultural Studies)」、 「グローバル化と言語/Globalization and Language」等)に分け、グローバル化のさまざまな現象を地域研究の視点ではなく、地球規模の視点から問題を分析・理解させ

る。他方、グローバル化の過程でそれぞれの国・地域が直面している環境問題や経済的格差などの問題を、持続可能な社会の実現の視点から分析し、その解決法を探究するのが「サステナビリティ・スタディーズ科目」群である。その科目群は「必修科目」（「サステナビリティと環境倫理/ Sustainability and Environmental Ethics」、「Introduction to Sustainability Studies B」など）と「基幹科目」（「サステナビリティと開発/ Sustainability and Development」、「サステナビリティと国際問題/ Sustainability and International Issues」等）及び「選択科目」（「Special Topics: Sustainability Studies B (Environment and Development Studies)」、「Special Topics: Sustainability Studies C (Religious and Social Studies)」等）から成り立つ。これらの専門的教育によって、「学問知の基礎科目」の応用として具体的な研究視角を獲得させ、高次の国際教養を涵養する。以上の学科科目を通じて、ローカルに生起する問題を解決するためにグローバルな視点からのアプローチを修得し、世界規模の多文化共生社会の実現と持続可能な社会の構築を目指すための学問である国際教養学を身につけることができる。

③他学部との連携。グローバル研究をローカルなレベルの問題解決と有機的に結びつけることを目指す国際教養学部では、地域から世界を見る視点も重要であると考え、地域研究を基礎としてグローバルな文化・社会研究と教育を行う外国語学部とカリキュラムの相互補完を図る。具体的には、異文化への理解と文化の多様性を尊重する態度を学び、国際社会への貢献を目指して開講している「地域研究科目」（外国語学部共通科目 B 群）＜資料 1＞から、グローバル・スタディーズとサステナビリティ・スタディーズに有機的に結びつく地域研究に関する科目（「ラテンアメリカの文化と社会 B」「東アジア国際政治史研究」等）を 1～4 年次の選択必修科目である「地域研究科目」（6 単位）として履修できるようにしている。さらに、国際教養学部で開講する「グローバル化と国際関係/ Globalization and International Relations」に対して、外国語学部の開講科目である「国際関係論の基礎（日本と中南米）」や「国際関係論の基礎（日本とアメリカ）」を乗り入れ科目として設定することによって、グローバルな視点と地域研究の視点を相互補完的に学修できるようにする。さらに、外国語学部が第 2 クォーターで開講している「海外フィールドワーク」科目や全学的に開講している実践知形成科目の選択科目（キャリア形成科目や海外研修科目）等の科目を履修し自由選択科目として卒業単位に算入することが可能であり、

各学生の関心に応じた実践的学習の機会を提供する。

④主専攻／副専攻制度。国際教養学部では、配置した専門科目を複眼的視点から再構成できるように、主専攻／副専攻制度を設ける。卒業論文研究においてはグローバル・スタディーズ並びにサステイナビリティ・スタディーズに関連する課題を取り上げる。基礎演習もしくは PBL 演習において副専攻の課題を取り上げる。基礎演習においては地域研究の課題を取り上げ、PBL 演習においては問題解決型の課題を取り上げる。基礎演習及び PBL 演習は、一方または双方を選択可能であり、卒業論文研究の基礎となる。

以上のように、主専攻／副専攻の分野の学修が有機的に結びつくように配置された学科科目のグローバル・スタディーズ科目、サステイナビリティ・スタディーズ科目、地域研究科目（外国語学部との共通科目群）、演習科目による学修を通して、地球規模の視野を持ち持続可能な社会の構築に貢献できる人材の育成が可能となる。

以上のように、国際教養学部国際教養学科の教育課程の編成は、21 世紀型スキルと外国語を複言語主義の視点から学修することを基礎とし、その上に専門教育としてグローバル・スタディーズとサステイナビリティ・スタディーズを教育することによって、多元的価値観に基づく国際教養学を備えた人材を育成するものとなっている。

<資料 1> 「地域研究科目」一覧

5. 教員組織の編成の考え方及び特色

国際教養学部国際教養学科の教育を実施する専任教員総数は 23 名で、教授 12 名、准教授 8 名、講師 3 名からなる。学位取得者は、博士号 18 名、修士号 5 名であり、78.3 パーセントが博士の学位を有している。

国際教養学部では、国際教養学の学びの集大成として卒業論文を最重要と位置付け、主として専門教育の教授、准教授、講師の博士号取得者（18 名）による指導を行う。国際教養学の人文科学分野の科目を担うのは、言語学、倫理学、宗教学、文学、歴史学、人類学などの人文科学領域の 11 名の教員（教授 6 名、准教授 4 名、講師 1 名）である。一方、国際教養学の社会科学分野の科目を担当する教員は、政治学、国際経済学、社会開発学の 4 名の教員（教授 3 名、准教授 1 名）、英語を主とした語学教育科目、情報リテラシー科目などの技法知の科目を担当する教員は 8 名（教授 3 名、准教授 3 名、講師 2 名）から編成され

ており、その専門性と人数から見て国際教養学部の教育を実施するための必要十分な教員配置となっている。この配置は教員の対学生比においても十分な配置となっている。

国際社会で通用する教養教育の涵養のために初年次から行う「技法知の基礎科目」「市民的教養の基礎科目」「学問知の基礎科目」におけるアカデミック・スキル科目の教育は、20名規模のクラス編成で実施し、8名の担当教員（教授2名、准教授5名、講師1名）が1年次と2年次の指導教員を兼ねることで、学生のスタートアップ次からの丁寧な指導を実施するのに十分な教員配置である。

3年次の「基礎演習 A」「基礎演習 B」「基礎演習 C」「基礎演習 D」及び「PBL 演習 A（環境）」「PBL 演習 B（文化）」「PBL 演習 C（社会）」の科目については、学部のほぼすべての22名の教員がどちらかの科目を担当することで、学生の学びの選択肢を増やす開講形態としている。海外経験の豊富な教員が多い国際教養学部では、3年次第2クォーターで学生を引率して「基礎演習 A」「基礎演習 B」「基礎演習 C」「基礎演習 D」及び「GLS フィールドワーク」科目を海外で実施する教員もある。教員はミャンマー、インドネシア、メキシコ、ザイールでのフィールドワークの経験を持つ者、フランス、ドイツ、イタリア、アメリカ社会で調査・研究に長期にわたって携わってきた経験を持つ者を含んでおり、学部の教育の目標に適合しており、国際的な人材の育成を行うために適した教員構成である。

最後に教員組織のバランスについて見ると、年齢構成(2017年4月1日時点)は、60～64歳5名、50～59歳6名、40～49歳9名、30～39歳3名となっており、教育・研究者として最も活躍が期待される40～50歳代の年齢の者が中心を占める。

<資料 2> 南山大学就業規則（抜粋）

<資料 3> 南山大学職員規則（抜粋）

6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

① アクティブ・ラーニング。国際教養学部の主たる教育方法は、通常の講義においても実践知が形成できるアクティブ・ラーニングの教育方法を採用する。国際社会で求められる教養とは、積極的に議論に参加し自らの考えを表明し組織の合意形成に寄与する能力を備えていることである。その能力を鍛錬するために、「グローバル・スタディーズ概論 A/ Introduction to Global Studies A」

のような必修科目においても、各週の1回目の授業を日本語で講義し、2回目の授業では1回目に出した課題について英語を使ってグループでディスカッションを行い、得られた知識を基に自分の考えを形成する。科目名の表記が日本語と英語となっているものは両言語を使う科目であり、「Special Topics: Global Studies B (Cultural Studies)」のような英語のみの表記の科目は英語で行う。

②少人数クラス。技法知の基礎科目に配置されている外国語教育科目においては1クラス20名以内のクラスで英語及び第二外国語能力を養成するほか、1年次からの必修科目である「学びの技法」「創造的・批判的思考 / Creative and Critical Thinking」のような思考に関するトレーニングが必要となる科目に関しても同様のクラス編成にし、学びが深化するようにディスカッションを中心とした教育方法を採用。学科科目のうち2年次の留学から戻った後、3、4年次の選択必修科目である基幹科目、例えば「グローバル化と開発経済 / Globalization and Development Economics」や選択科目については、養われた英語能力を生かしたより英語の比率を上げた授業運営を行う。20名程度の学生数で行う授業では、プレゼンテーションを重視した教育方法を採用する。

③演習。4年次に自らの関心に応じたテーマ(多文化共生、異文化理解、環境、貧困、エネルギー問題等)を主専攻として選択し、必修科目の「卒業論文研究 I」「卒業論文研究 II」及び「演習 I」を通して、グローバル社会の様態や問題に関して卒業論文を執筆し、統合的に学修を完成させる。それに先立ち、3年次にはそれまでに学んだ外国語を活用して地域のローカルな諸問題について研究する「基礎演習 A」「基礎演習 B」「基礎演習 C」「基礎演習 D」、実際の社会の課題に対してグループで解決策を議論する「PBL 演習 A (環境)」「PBL 演習 B (文化)」「PBL 演習 C (社会)」の中から2科目2単位を、学生の興味・関心に応じて副専攻として選択させる。基礎演習 A~D は、特定の地域を研究対象としている担当者が日本、アメリカ、東南アジア、アフリカ、ヨーロッパの社会で生起している様々な問題を対象としてグローバルな視点から研究指導を行う。課題解決型学習(Project-Based Learning)に基づく3つの「PBL 演習」では、実際の社会の課題に対して解決のための方策を小グループで協働的に考察することを通じて、国際教養に必要な実践知を体得させる。専任教員22名が各自の専門分野に基づく上記の基礎演習 A~D をいくつかのクォーターで開講し、学生にはそれらの演習から2科目以上履修させ、広い視野を身につけさせる。この多様な学び

を奨励する自由度の高い主専攻・副専攻制度を設けることによって、国際教養学部の学生は、従来の専門領域や地域研究に限定されることなく視野の広い国際教養を身につけることができる。なお、基礎演習 A～D は同じ教員の基礎演習でも開講期が複数であるため内容が異なり、特定の地域の深い知識を得たい学生と特定の専門分野に集中して地域を超えた広い学びを得たいという学生の要求の両方に応えることができる。

一方、副専攻としての 3 年次の演習科目は、卒業要件の総単位数である 124 単位を考慮し、選択必修科目の単位は 2 単位としているが、標準的にはこれら演習科目については 5 科目程度を履修することを想定しており、2 単位を超えて修得した場合には自由選択科目として卒業単位数に算入することで専門教育の充実を図っている。

これら演習科目のクラス・サイズは、国際教養学に関するテーマを小グループで探究できるように、さらに小規模の 10 名程度とする。演習科目は、学生の調査に基づく発表を行い、指導教員の指導を受けながら自ら設定した課題・テーマを、他の学生とディスカッションしながら探究・解決できる能力を養成する。

④指導教員制度。学生の勉学指導については、学びの進捗状況がわかるようにポートフォリオによって指導教員が中心になって、入学から卒業まできめ細かな指導を行う。指導教員制度は学生生活や教務関係など学生が抱える様々な問題について、教員が学生にアドバイスする制度であり、南山大学で 40 年以上の実績がある。このほか、ライティングセンターを設置し、教員 1 名と数名の TA によりセンターを運営し、学生の日本語・英語によるレポート、論文の書き方の指導ができる体制を整えている。

⑤履修指導方法。指導教員はオフィスアワーにおいて、学生の 1、2 年次においては基礎的な教養教育のスキル科目や英語の学習指導を行うほか、第二外国語の選択に際してアドバイスを行う。専門教育においては主専攻や副専攻の選択方法や、自由選択科目科目への単位振替について丁寧な履修指導を実施する。また、外国語学部共通科目 B 群の選択についても、4 年間の統合的な学修の実現に向けて履修指導を行う。

⑥卒業要件及び年間登録上限単位数。卒業要件を以下の表にまとめる。共通教育科目を 31 単位以上、学科科目を 87 単位以上、自由選択科目として 6 単位以上履修することとする。なお、学科科目については、さらに国際教養学部の

領域を細分化し、必修科目、基幹科目、選択科目等を配置し、卒業要件としている。学科科目として、6領域に分け、1) 国際教養学基礎科目 36 単位（詳細については後述）、2) グローバル・スタディーズ科目 24 単位（必修科目 12 単位、基幹科目 12 単位）、3) サステナビリティ・スタディーズ科目 14 単位（必修科目 8 単位、基幹科目 4 単位、選択科目 2 単位）、4) 演習科目 7 単位（必修科目 5 単位、選択必修科目 2 単位）、5) 地域研究科目 6 単位を履修することを卒業要件としているほか、さらに 6) 実践知形成科目として「GLS フィールドワーク/ GLS Fieldwork」（選択科目 3 単位）を配置している。国際教養学基礎科目 36 単位の内訳は、技法知の基礎科目 18 単位（うち必修科目 15 単位、選択必修科目 3 単位）、市民的教養の基礎科目 10 単位（必修科目 8 単位、選択必修科目 2 単位）、学問知の基礎科目 8 単位（必修科目 2 単位、選択科目 6 単位）とし、国際教養学という幅広い学問領域において、必修科目と基幹科目を中心に配置し、それを補完する選択科目によって教養教育を肉付けする配置としている。履修ガイドンスでは履修モデル<資料 4>を示し、学生の科目の選択を指導する。

表：卒業要件単位

科目区分			累計	累計	卒業要件 単位数		
卒業 要件 単位	共通教育科目	必修科目	宗教科目	4	16	31	
			体育科目	2			
			情報倫理科目	2			
			外国語科目（英語）	8			
		選択必修 科目	人間の尊厳科目	4	15		
			外国語科目（他外国語）	3			
			基盤・学際科目	8			
学科科目	国際教養学 基礎科目	技法知の 基礎科目	必修科目	15	18	87	
			選択必修科目	3			
		市民的教養 の基礎科目	必修科目	8	10		
			選択必修科目	2			
		学問知の 基礎科目	必修科目	2	8		
			選択科目	6			
	グローバル・スタディーズ 科目	必修科目	12	24			
		選択必修科目（基幹科目）	12				
	サステイナビリティ・スタ ディーズ科目	必修科目	8	14			
		選択必修科目（基幹科目）	4				
		選択科目	2				
	演習科目	必修科目	5	7			
		選択必修科目	2				
	地域研究科目	選択必修科目	6	6			
	自由選択科目	選択科目	6	6	6		
	単位数合計						124

年間登録上限単位数は、各クォーター15単位とし、年間で44単位と定めている。学生の十分な授業外での学修時間を確保するための配慮である。また、2年次第2クォーターで実施する海外留学での履修単位（6単位）が不足した場合には、他のクォーターで補うことが十分にできる上限単位数となっている。他大学（海外の大学を含む）における授業科目の履修は、教育上有益と認められる場合は、学生の入学前及び入学後に関わらず、学生からの申請と所定の手続きを経て60単位までが卒業に必要な卒業要件単位として認められる。

⑦履修モデルの特徴。まず、国際機関・多国籍企業で働くことを目指す履修モデルは、企業活動の側面を重視し、社会科学の科目と人文科学の科目を同様の比重で学ぶモデルである。1～2年次に社会科学分野の基礎科目を履修した上で、「国際経済学」「国際関係論」などの選択科目を履修する。3～4年次にはグローバル・スタディーズとサステナビリティ・スタディーズの両方において経済、政治などの社会科学分野の学問を主専攻として学ぶとともに、民族、宗教、文化などを副専攻として学修する。それにより外務省などの政府機関や様々な国際機関でのキャリアを積んでいく進路、国際的なビジネスを展開している日本企業や外資系企業などに就職する進路を目指すことができる。

次に国際 NGO や NPO で働くことを目指す履修モデルは、教養を重視するという観点から人文科学の科目に重きを置き、社会科学の科目を補完的に学ぶモデルである。1～2年次には民族問題や倫理学などの基礎科目を履修した上で、「文化論」「国際協力論」などの選択科目を履修する。3～4年次にはグローバル・スタディーズとサステナビリティ・スタディーズの両方において国際協力、環境倫理、民族・宗教などを主専攻として学ぶとともに、国際問題、開発経済などを副専攻として学修する。それにより国際的な活動をしている NGO や NPO、国内の地方自治体の国際的な部署などに就職する進路を目指すことができる。

最後に主として留学生を対象とした英語展開プログラムは、日本理解を含む人文科学の科目を中心に学ぶ英語科目に重きを置くモデルである。1～2年次には異文化理解などの基礎科目を履修した上で、「文化論」「メディア論」などの選択科目を学び、3～4年次にはグローバル・スタディーズとサステナビリティ・スタディーズの両方において英語で開講されている Special Topics 科目を中心に Cultural Studies、Religious and Social Studies を主専攻として学ぶとともに、Political Studies や Economic Studies などを副専攻として学修する。それにより様々な国際機関、出身国の外務省、国際的な活動をしている NGO や NPO、多国籍企業、国際展開をしている日本企業などに就職する進路を目指すことができる。

<資料 4>履修モデル

7. 施設、設備等

7-1. 校地、運動場の整備計画

現在、南山大学は名古屋市と瀬戸市にそれぞれキャンパスを所有している。平成 27 年 4 月に瀬戸キャンパスの理工学部と理工学研究科及び数理情報研究科を名古屋キャンパスへ移転した。国際教養学部を開設する平成 29 年 4 月には、総合政策学部と総合政策研究科を瀬戸キャンパスから名古屋キャンパスへ移転し、すべての学部と研究科を名古屋キャンパスに統合する予定である。このキャンパス統合と国際教養学部の設置に伴い、平成 29 年 4 月の竣工に向けて新教室棟を建設中である。

名古屋キャンパスの校地面積は 129,626 m²であり、自然の起伏を活かす形で校舎が配置されている。運動場としてはグラウンド (17,850 m²)、体育館 (アリーナ 1,135 m²)、テニスコート 5 面、体育センター (メインアリーナ 1,862.19 m²、多目的ホール 313.70 m²、ラケットボールコート 95.43 m²、卓球場 531.33 m²、剣道場 378.16 m²、柔道場 433.20 m²、室内温水プール、トレーニングルーム)を整備しており、その他にも芝生の広場であるグリーンエリア (4,000 m²)や屋上緑化スペースなどを設け、学生は休息等のため自由に利用できる。また、学生向けの厚生施設としては、生活面では食堂、書店、コンビニエンスストア、旅行代理店などがある。

7-2. 校舎等施設の整備計画

国際教養学部の特色であるアクティブ・ラーニングを支える施設・設備として、20 名程度の学生を収容できる少人数の授業に適した教室が必要となるが、下表のとおりその需要を十分に満たす設備を整えている。それらの教室には、ディスカッションが行いやすい可動式の机と椅子が一体化した什器を備えた教室を含んでおり、教育方法と履修指導方法に見合った施設となっている。学部の一学年の学生全員 150 名を対象とする授業を行う教室も下表のとおり十分な数を整備している。

平成 29 年 4 月名古屋キャンパス全体の教室数

教室定員	教室数	教室定員	教室数	教室定員	教室数	教室定員	教室数
1～10 名	2	11～20 名	27	21～30 名	47	31～40 名	52
41～50 名	23	51～100 名	79	101～200 名	27	201～300 名	7
301～500 名	4	501 名以上	2				

以下の表に示す通り、平成 29 年度における 1 週間の教室の使用状況(稼働率)の平均は 50% 程度と予測できる。この予測は、学生数の増加、現在建設中の新教室棟を含めた総教室数に基づいている。この数値は、学生の予習復習や課外活動等を含めて、教室設備が十分なものであることを示している。学生数の増加、教育課程の変更によるクラス数の増加に耐えられる教室数が用意されている。

教室稼働率予測 平成 29 年度春学期 (第 1～2 クォーター)

時限	月		火		水		木		金	
1 時限	78	28.9%	127	47.0%	140	51.9%	131	48.5%	107	39.6%
2 時限	129	47.8%	186	68.9%	158	58.5%	176	65.2%	113	41.9%
3 時限	116	43.0%	160	59.3%			171	63.3%	134	49.6%
4 時限	105	38.9%	127	47.0%			162	60.0%	101	37.4%

(左側：使用教室数予測 右側：稼働率予測 教室総数 270 室)

国際教養学部すべての専任教員(教授、准教授、講師)には個人研究室が用意されている。また、国際教養学部の学生のため専有のスペースとして、ライティングセンターを兼ね備えた GLS ラーニング・コモンズを設置しており、「PBL 演習 A (環境)」「PBL 演習 B (文化)」「PBL 演習 C (社会)」のプロジェクトについて学生同士で議論を行うこと、また教員がその共有スペースでグループでの学生の勉学指導を行うことができる施設を備えている。また、学生は学内の 4 ヶ所に分散して設置されているラーニング・コモンズを他学部の学生とともに、自由に利用して議論することができる。

<資料 5> 時間割モデル

7-3. 図書等の資料及び図書館の整備計画

国際教養学部における教育研究に必要な資料は、主に図書館に所蔵されている。図書館には当該分野に係る図書約 85,103 冊、“State of the world : a Worldwatch Institute report on progress toward sustainable society” や “Global issues” など当該分野に係る学術雑誌約 1,538 タイトルが完成年度までに整備されるほか、約 1,665 タイトルの電子ジャーナル、電子書籍、データベースの利用が可能である。館内には、閲覧席として 831 席を備える他、レファレンスカウンター、複写機器、情報検索のための端末、マルチメディア

資料を閲覧できる機器を配置している。また、授業終了後も利用できるように、平日午前9時から午後10時、土曜日は午前9時から午後8時まで開館している。授業・試験期間中の日曜日については、午前10時から午後5時まで開館し、学生の勉学の便宜を図っている。

図書館間協力も積極的に行っており、近隣大学図書館等との相互利用、国立情報学研究所をはじめ OCLC 等海外との相互文献貸借、文献複写のサービスが利用可能である。さらに継続して当該分野に関する資料の系統的収集に努めるほか、電子ジャーナル、電子書籍、データベースの導入・利用を推進している。

8. 入学者選抜の概要

8-1. アドミッション・ポリシー

国際教養学部においては、異文化の他者との相互理解を促進し、グローバル化の進展に対応するために、国・地域の枠を超え、多元的価値観を重視した国際教養学教育を行う。21世紀型市民として、文化間の摩擦により生じる様々な問題を理解・分析することを通じて、その解決に向けて他者と協働しながら積極的に行動できる人材を育成するために、以下のような者を受け入れる。

- ・ 情報収集能力、洞察力に富み、生涯を通して、自らの「教養力」を強化できる人
- ・ コミュニケーション能力、異文化理解力の基礎を備え、国際的問題の解決に寄与できる人
- ・ 多様な文化的背景をもつ人々と協働し、地域社会の持続的発展に寄与できる人

8-2. 入学試験・審査形態及び入学試験科目

上記のようなアドミッション・ポリシーに対応して、国際教養学部は多様な文化、学修経験などの背景を持った志願者が受験できるような試験・審査を実施する。そのために以下のような入学者選抜を実施する。

種別		定員	試験の内容	対象
一般入試		50	個別学力試験	高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び当該年度卒業見込み者、高等学校卒業程度認定試験合格者及び合格見込み者等
全学統一入試	[個別学力試験型]	10	個別学力試験	
	[センター併用型]	10	個別学力試験＋大学入試センター試験の組み合わせ	
センター利用入試 [前期 5 教科型]		5	大学入試センター試験のみ	
推薦入学審査 (指定校)		25	書類審査+面接（英語による面接を含む）	過去の外国語学部の受験生のデータを基に選んだ高校（約 50 校）に所属する者
学園内高等学校推薦入学審査		15	書類審査+面接（英語による面接を含む）	南山高等学校男子部／南山高等学校女子部／南山国際高等学校／聖霊高等学校／聖園女学院高等学校に所属する者
カトリック系高等学校等推薦入学審査		5	書類審査+小論文+面接（英語による面接を含む）	学園内を除く全国のカトリック系高校（109 校）に所属する者

帰国生徒推薦 (国際校／指 定校)	5	書類審査+面接（英 語による面接を含 む）	帰国生徒を受け入れている 高校に所属する者
国際教養学部 特別選抜試験 (AO入試型)	10	書類審査+小論文 (日本語及び英語) +プレゼンテーシ ョン+面接（日本語 及び英語）	高等学校又は中等教育学校 を卒業した者及び当該年度 卒業見込み者、高等学校卒業 程度認定試験合格者及び合 格見込み者等（日本国内のイ ンターナショナルスクール 出身者等を含む）
外国高等学校 卒業生等入学 試験	若干	書類審査+筆記試験 +面接	帰国子女など、国外の教育制 度下で青少年期を過ごした 者
外国人留学生 入学審査	10	書類審査+筆記試験 +面接	外国籍を持つ者
外国人留学生 別科留学生推 薦入学審査	若干	書類審査+面接	本学外国人留学生別科を修 了し、本学学部への進学を希 望する者
国際教養学部 特別選抜試験 (センター利 用型)	5	大学入試センター 試験+グループデ ィスカッション+ 面接（日本語及び英 語）	高等学校又は中等教育学校 を卒業した者及び当該年度 卒業見込み者、高等学校卒業 程度認定試験合格者及び合 格見込み者等
合計	150		

9. 海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

国際教養学部では2つの独自の海外実習プログラムを実施する。

①2年次第2クォーターに必修化する約6週間の短期留学（6単位）（長期の交換留学生を除く）。この留学は語学研修だけではなくアカデミックな内容の科

目を履修するものであり、実習先で学生は同時期に国内で開講する

「Citizenship B」「Introduction to Global Studies B」「Introduction to Sustainability Studies B」の内容に相当する授業を履修し、引率者のもとでフィールドワーク、グループディスカッションを行い、帰国後に実習先大学の成績と最終レポートを総合して国際教養学部が単位を付与する。この海外実習は、事前と事後に行う国内での授業を組み合わせることで実習の教育的効果を向上させる。

②3年次及び4年次の第2クォーターに行う「GLS フィールドワーク/ GLS Fieldwork」(3単位)。このプログラムは教員が引率するものとし、毎年5つ程度のプログラムを3週間以内の期間で実施するが、同じ実習を毎年行うのではなく、基本的に隔年実施として入れ替え、かつ3、4年生合同のプログラムとして実施する。担当教員は自らが研究対象とする地域で学生のフィールドワークと語学研修を指導する。また、学生が教員の指導の下でそれぞれプロジェクトを設定し現地での活動や調査を行うことを可能とし、その中にはサービス・ラーニング、聞き取り調査などを含めて、海外実習先の事情に合わせたプログラムを組むことができる。このプログラムには、参加する学生は3年次では事前と事後に、4年次では前年度に、国内で行う1単位の「基礎演習A」「基礎演習B」「基礎演習C」「基礎演習D」を組み合わせることができる。

③その他。上記の国際教養学部のプログラムの他、第2クォーターに開講されている外国語学部の「海外フィールドワーク」(3~4単位)科目に参加することができる。外国語学部では、スペイン語、フランス語、ドイツ語、中国語、インドネシア語の海外での言語実習を3~4週間の期間、必修科目として実施しているが、国際教養学部の学生は2年次の第3クォーターから第二外国語としてこれらの言語を学び、所定の基準に達した場合には、これらの海外での言語実習を履修することができる。

9-1. 実習先の確保の状況

①2年次第2クォーターの短期留学については、アリゾナ州立大学(Arizona State University 所在地: Tempe, AZ 85281, United States)を実習先としている。本プログラムについては、授業の実施方法、受入れ可能人数(最大150名)、成績評価について合意文書を取りつけている。(＜資料6＞)

アリゾナ州立大学は、国際教養学部の学生がグローバル・スタディーズとサ

ステイナビリティ・スタディーズについて学ぶ実習先として適切である。アリゾナ州は、メキシコなどからの多数の移民を受入れている州であり、国境を超えた人の動きについて、そしてそれが引き起こす問題やその対処法などについて学ぶことができる。また同大学はエネルギー政策研究でも有名であり、大学自らも使用するエネルギーを自然エネルギーによる自家発電によって賄っている。同大学は、学問的にも、実際に行われている政策を学ぶためにも最適な場所である。

②「GLS フィールドワーク/ GLS Fieldwork」については、すでに引率する教員が実習先を確保している。例えば、国際経済をテーマにするプログラムについては、交換協定校のニューヨーク市立クイーンズ・カレッジを受け入れ機関とする。また、インドネシア語及びインドネシアの宗教と民族の多様性を学ぶプログラムについては、パジャジャラン大学文化研究学部で実施する。さらに、フランスでは Ecole de Management Bretagne Atlantique においてフランス語やフランス文化についてのプログラムを行う。その他、ワシントン DC では国際関係に関する聞き取り調査を行うプログラム、フィリピンのセブ島では地域のボランティア活動を中心とするプログラムへの学生の参加の可能性が確認できている。

<資料 6> 実習施設一覧・受入承諾書

9-2. 実習先との連携体制

①アリゾナ州立大学は、南山大学の交換協定校であり、学生の長期留学を通して南山大学とアリゾナ州立大学の学生交流担当部署が長年緊密な連携を取ってきている大学である。上述のように、同大学とはすでにプログラムについての綿密な打ち合わせをしており、特に Director of Global Business Development から、プログラムの計画と実施のための全面的な協力についての確約を得ている。

②「GLS フィールドワーク/ GLS Fieldwork」については、原則的に大学や公的機関を受け入れ先とする。上記のクイーンズ・カレッジ、Ecole de Management Bretagne Atlantique などは既に協定校であり、先方の受入れ担当者とは良好な関係性を築いていることもあり円滑な連携を行うことができる。また、協定校ではない実習先とは実施の前年に運用細則に関する覚書を取り交わし、学部教授会の承認を経て具体的な条件を合意した上で実施する。

9-3. 成績評価体制及び単位認定方法

①アリゾナ州立大学におけるプログラムについては、プログラムの内容と時間数が記されている修了証明書と成績表の提出を受け、それに加えて事前と事後に行われる授業と帰国後に提出させるレポートを基に、すべての成績を総合的に評価し6単位を認定する。

②「GLS フィールドワーク/ GLS Fieldwork」については、受け入れ先から提供される報告書と現地での活動報告含むプロジェクト・レポートを基に、引率教員が成績評価及び単位認定を行う。

9-4. その他特記事項

アリゾナ州立大学におけるプログラムに参加しない長期留学を計画している学生、止む無き事情により参加できない学生に対して、「Citizenship B」「Introduction to Global Studies B」「Introduction to Sustainability Studies B」を第2クォーターに開講し、学生の必修科目の履修機会を保障する。

「GLS フィールドワーク/ GLS Fieldwork」は、初年次からの国際教養学の学修と連動しているプログラムである。2年間の基礎的な教養教育において関心を持った地球規模の問題やテーマについて世界各地の受け入れ先機関を拠点として、各自のテーマについてフィールドワークを行う。

10. 編入学定員を設定する場合の具体的計画

10-1. 既修得単位の認定方法

国際教養学部においても、南山大学の他学部、特に外国語学部で実施している2種類の既修得単位の認定方法により、単位の認定を実施する。一つは包括認定方式によるもので、50単位を上限として認定する。さらに、個別科目について、既修科目と国際教養学部の科目との履修内容の相同を検討した上で原案を作成する。その際、両方式の合計の認定単位数は卒業単位の半分である62単位を上限とする。認定に際しては、学部・学科科目は学科において、共通教育科目においては全学の教務委員会において原案を作成し、教授会の審議によって認定を行う。

<資料7>編入学等による入学者の既修得単位に関する内規

10-2. 履修指導方法

国際教養学部の1、2年次開講科目のうちの必修科目については、編入学者が相当の科目を履修していない場合は、当該科目を履修するように指導する。ただし、1年次の必修科目である「国際教養学入門/ GLS Lecture Series」「国際教養学概論/ Introduction to Global Liberal Studies」「グローバル・スタディーズ概論 A/ Introduction to Global Studies A」「サステナビリティ・スタディーズ概論 A/ Introduction to Sustainability Studies」については、すべての編入学生が受講するように指導する。

3年次の演習の選択については、編入学が決定した前年度中に面談を実施した上で、「基礎演習 A」「基礎演習 B」「基礎演習 C」「基礎演習 D」「PBL 演習 A (環境)」「PBL 演習 B (文化)」「PBL 演習 C (社会)」の選択の指導を個別に実施する。

<資料 8>編入学後の履修モデル

10-3. 教育上の配慮等

編入学が決定した前年度中に面談を実施する段階で、編入学生の興味関心に近い教員を指導教員として割り振り、編入学後の教育及び学生生活上の指導を行い、国際教養学部の新たな環境に円滑に順応し、勉学が順調に進むように特別の配慮を行う。

11. 管理運営

国際教養学部の管理運営は、大学学則に基づき設置される国際教養学部教授会により行われる。国際教養学部教授会は、南山大学教授会規程に基づき、国際教養学部の授業科目を担当する教授、准教授及び講師によって構成され、月1回の定例会議を開催することを原則に、学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項、学位の授与に関する事項などについて審議を行う。有任期の講師はオブザーバーとして教授会に参加できる。

学科の管理運営は、国際教養学部が一学科から構成されているので、学部教授会が管掌するものとする。ただし、学科レベルで審議が必要な事項がある場合には、学科会議を開催する。

さらに、学部には、教授会運営委員会、将来構想委員会、FD 委員会、教務委員会、卒業研究委員会を設け、それぞれの管掌事項について取り扱う。

また、南山大学学則に基づき、学長を長とする学部間の連絡調整や諸規程の制定改廃などを協議する大学協議会が設置されている。時間割編成や履修登録、試験の実施など大学全体の教務に関する事項を円滑に実施するための大学教務委員会、将来構想に関する事項を審議する大学将来構想委員会、FD活動を企画・運営する大学FD委員会が設置されており、各学部教授会との緊密な連携のもとに運営がなされている。

国際教養学部において管理運営の中心を担う学部長は、南山大学学部長候補者選挙規程基準及び南山大学管理職制に基づき、各学部構成員の選挙（単記無記名投票）によって候補者が選出される。選出された学部長候補者は、大学評議会を経て学長により推薦、理事会の承認を得て、最終的に理事長により学部長として任命される。

<資料 9>南山大学教授会規程

<資料 10>南山大学学部長候補者選挙規程基準

<資料 11>南山大学管理職制（抜粋）

12. 自己点検・評価

本学では、平成3年度に全学機関として、教学担当副学長を委員長とする「南山大学自己点検・評価委員会」を設置して以来、「自己点検・評価報告書」の毎年発行（平成8年より）など、組織的・継続的に自己点検・評価を実施している。

それぞれの部局（学部・学科、研究科・専攻、各種委員会、各事務課室等、組織体ではないが毎年度出される「学長方針」や「事業計画」も対象とする）は、1. 現状の説明（本年度の状況及び前年度の自己点検・評価結果を踏まえた改善状況）、2. 点検・評価（本年度の目標の設定とそれを実現するための手段、及びその達成度）、3. 長所と問題点（長所、改善された点及び残された問題点の整理）、4. 将来の改善・改革に向けた方策（残された問題点についての改善方策）の4つの観点に基づいた報告書の作成・提出が毎年義務付けられている。提出された自己点検・評価報告書は、自己点検・評価委員会のもとで大学全体の報告書としてまとめられ、平成17年度以降、公式Webページで全文を公開している。加えてそれぞれの部局の報告書を自己点検・評価委員会委員が分析し、改善すべきところをまとめた『「自己点検・評価報告書」評価報告書』を作成し、それぞれの部局にフィードバックすることにより自己点検・評価の形骸化を防

いでいる。これらのプロセスを通して、それぞれの部局は部局長を中心に毎年改善・改革を行ってきている。

平成 25 年度に受審した（財）大学基準協会の認証評価において、自己点検・評価を行う体制として、「南山大学自己点検・評価規程」を制定し、全学的な「自己点検・評価委員会」を設置し、平成 24 年には、「理念・目的に基づく方針や具体的な目標を設定し、それを実現・達成するための諸活動を自らの責任において定期的・継続的に点検・評価する」ことなどを明記した内部質保証の方針を策定したことに対し評価を得ている。

全学的な自己点検・評価の一環として、国際教養学部においても平成 29 年度（開設年度）から毎年、自己点検・評価に取り組み、改善すべき点の発見とその改善を行う。具体的には、毎年 2 回実施されている全学的な「学生による授業評価」の結果を分析し、①個々の授業について、②時間割編成・カリキュラムについて、③研究指導体制について、④研究環境・施設について、⑤その他について、改善に向けての検討課題を洗い出し、他学部同様に、恒なる自己改革を目標として自己点検・評価を実施していく。

13. 情報の公表

大学全体に関わる情報は大学の公式 Web ページ (<http://www.nanzan-u.ac.jp/index.html>) や大学案内等の出版物、大学説明会などの大学行事や各種の広報活動、高校訪問などの機会を通じて受験生や広く社会一般に公開しており、国際教養学部でもこれを行う。

情報提供の中心である公式 Web ページを利用して具体的に提供している教育研究活動の状況に関する情報には、以下のようなものがある。

13-1. 大学の教育研究上の目的に関すること

<http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/rinen/index.html>

<http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/koho/catholic/index.html>

<http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/torikumi/grand/index.html>

13-2. 教育研究上の基本組織に関すること

<http://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/index.html>

<http://www.nanzan-u.ac.jp/grad/index.html>

<http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/kenkyu/ic/index.html>

13-3. 教員組織、教員の数ならびに各教員が有する学位及び業績に関する
こと

<http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/index.html>

<http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kyoin.html>

<https://porta.nanzan-u.ac.jp/research/>

13-4. 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学
生の数、卒業または修了した者の数ならびに進学者数及び就職者数そ
の他進学及び就職等の状況に関すること

<http://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/policy.html>

<http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/zaiseki.html>

<http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/gakui.html>

http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/CAREER/siryousyusyoku_2011.html

13-5. 授業科目、授業の方法及び内容ならびに年間の授業の計画に関するこ
と

<http://office.nanzan-u.ac.jp/KYOUMU/>

<http://office.nanzan-u.ac.jp/KYOUMU/f/jyugyo.html>

13-6. 学修の成果に係る評価及び卒業または修了の認定に当たっての基準
に関すること

<http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/pdf/d1010.pdf>

<http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/pdf/d1020.pdf>

13-7. 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関するこ
と

<http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/GAKUSEI/kagai/index.html>

13-8. 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

<http://www.nanzan-u.ac.jp/admission/campuslife/gakuhi.html>

13-9. 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/CAREER/index.html>

<http://office.nanzan-u.ac.jp/student-services/campus-life/c004.html>

13-10. その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履状状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等）

<http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/index.html>

14. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

本学では、建学の理念に基づき、教育活動の質的向上を期して、「南山大学ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会」を設置している。本委員会では、全学的な教育支援活動の企画立案に取り組むとともに、学部・学科等の組織ごとに開催される授業研修会・研究会などを支援している。具体的には、「FD講演会」「新任教員研修会」「学生による授業評価」「プレゼンテーション研修会」「情報機器の操作説明会」「外部FD研修会への参加」といった活動である。

講演会や研修会以外にFD委員会が全学的に継続的に実施している取り組みとしては、上に記した「学生による授業評価」（平成11年度～）や、事前アンケートにより見学を了承した教員の授業を参観する「日常的授業参観」（平成15年度～）がある。「学生による授業評価」の活用については、各教員へフィードバックするとともに、それぞれの部局単位で教員相互に活用して部局全体の授業改善の施策を講じるようにしている。その他、授業評価結果が特に高い授業については、「学内授業GP」として、当該授業担当教員による授業研究会を開催している。

また、FD活動に関する情報を広く教員に提供するためWebページを開設し、委員会や学部・学科の取り組みを紹介するとともに、教育活動支援情報として、学内外で開催されるFD関連の研究会や研修会、教育力の向上に役立つと思われる

る書籍や視聴覚資料、学内授業 GP の授業研究会の記録などを紹介している。あわせて図書館（名古屋・瀬戸キャンパスとも）に FD 関連指定図書コーナーを設置し、Web ページで紹介した資料をすぐに閲覧できる体制を整備している。

15. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

15-1. 教育課程内の取組について

本学では各学部・学科において、キャリア科目が配置されている。国際教養学部では、必修科目として 1、2 年次に「キャリアデザイン I」「キャリアデザイン II」を開講し、国際公務員、国際 NGO/NPO 職員、国際企業人などによる国際キャリア教育を実施する。

<資料 12>シラバス

15-2. 教育課程外の取組について

本学では、就職を含む今後のキャリアを考えることを目的とした支援制度として、「キャリアサポートプログラム」、「就職支援プログラム」及び職業観・勤労観の育成や専門教育の実地学習を目的とした就業体験を行う「インターシッププログラム」を実施している。また、既に進路や希望する職業（就職先等）を選択している学生を対象として、資格取得や受験準備を支援するための各種講座（法職特別課外講座、会計士講座、エクステンション・カレッジ学生向け特別講座・公開講座）を開講している。

<資料 13>キャリアサポートガイド 2016

15-3. 適切な体制の整備について

本学では、全学的な組織として「キャリア支援室」と、正・副委員長、学部選出委員、学生部次長、キャリア支援室長により構成される「キャリアサポート委員会」と「就職委員会」を設置し、学生の社会的・職業的自立に関する指導等の体制を整備している。キャリア支援室と両委員会は密接に連携しながら、各学部・学科の教員をはじめ、教務課やエクステンション・カレッジ事務室等とも協力して、学生の基礎学力の向上から社会人としての将来設計まで、初年次から一貫したキャリア・就職支援プログラムの立案・運営を行っている。

<資料 14>キャリアサポート委員会規程

<資料 15>就職委員会規程

資料目次

資料No.	資料名
資料 1	「地域研究科目」一覧
資料 2	南山大学就業規則（抜粋）
資料 3	南山大学職員規則（抜粋）
資料 4	履修モデル
資料 5	時間割モデル
資料 6	実習施設一覧・受入承諾書
資料 7	編入学等による入学者の既修得単位に関する内規
資料 8	編入学後の履修モデル
資料 9	南山大学教授会規程
資料 10	南山大学学部長候補者選挙規程基準
資料 11	南山大学管理職制（抜粋）
資料 12	シラバス
資料 13	キャリアサポートガイド 2016
資料 14	キャリアサポート委員会規程
資料 15	就職委員会規程

<資料1>「地域研究科目」一覧

「地域研究科目」：以下の外国語学部共通科目 B 群から 6 単位を履修することとする。

科目一覧

科目名	単位数	科目名	単位数
言語研究の基礎	2	外国語教育の基礎	2
コミュニケーション研究の基礎	2	政治研究の基礎 (アメリカ)	2
社会学研究の基礎 (アメリカ)	2	歴史研究の基礎 (アメリカ)	2
歴史研究の基礎 (イギリス)	2	アメリカの歴史	2
アメリカの社会	2	アメリカの政治	2
アメリカの文学	2	アメリカの外交	2
イギリスの歴史	2	イギリスの文学	2
政治とコミュニケーション	2	人間関係とコミュニケーション	2
異文化コミュニケーション	2	外国語教育論	2
第二言語習得論	2	英語の構造	2
英文法論	2	心理言語学	2
文学理論	2	国際関係論	2
スペイン・ラテンアメリカの文化入門A	2	スペイン・ラテンアメリカの文化入門B	2
スペイン文学A	2	スペイン文学B	2
ラテンアメリカ文学A	2	ラテンアメリカ文学B	2
ラテンアメリカ史A	2	ラテンアメリカ史B	2
ラテンアメリカの文化と社会A	2	ラテンアメリカの文化と社会B	2
ラテンアメリカの文化と社会C	2	スペインの文化と社会A	2
スペインの文化と社会B	2	スペインの文化と社会C	2
ラテンアメリカ特殊研究A	2	ラテンアメリカ特殊研究B	2
比較文化論	2	フランス文学史	2
フランスの文化	2	フランスの歴史	2
フランスの国際関係	2	フランスの芸術	2
フランスの思想	2	フランスの政治	2
フランス語学	2	ドイツ研究の基礎 (政治)	2
ドイツ文学史	2	ドイツ史	2
ドイツの政治と社会	2	ドイツ文学研究	2
ドイツ歴史研究	2	ドイツ思想研究	2
中国圏の文化と社会	2	東南アジアの歴史と社会	2
中国語学研究	2	中国文学研究	2
中国文化研究	2	中国近現代史研究	2
東アジア国際政治史研究	2	東アジア特殊研究	2
インドネシア文化研究	2	東南アジア特殊研究	2
華人社会研究	2	華人文化研究	2

南山大学就業規則

（教員の定年に関する規定の抜粋）

（省 略）

第5節 定 年

第25条 職員の定年を次のとおりとする。

1 教 育 職 員

- (1) 南山大学職員規則第4条第2項に定める大学院教授 満70歳
- (2) (1)以外の者 満65歳

2 事 務 職 員 等

- (1) 主任以上の職能にある者 満65歳
- (2) (1)以外の職能にある者 満60歳

(3) 削 除

② 前項第2号(1)の定めにかかわらず、満60歳に達する以前に、降格処分を受けた後、前職能に復帰しなかった事務職員等の定年については、満60歳とする。ただし、降格処分を受けた後、降格後の職能に相当する職階上の役職にある者で、勤務成績が良好である場合は、事務職員等人事委員会の議を経て、満65歳を定年とすることができる。

③ 満60歳を過ぎて降格処分を受けた場合は、降格した年度末を定年とする。

第25条の2 第25条第1項第2号(2)および第25条第2項ならびに第25条第3項による定年到達者が引き続き勤務を希望した場合は、「南山学園事務職員等の再雇用制度に関する規程」により満65歳に達した年度末までの間、1年契約の更新制として定年に引き続き再雇用する。

第26条 業務の都合で第25条第1項第1号(2) および第25条第1項第2号(1) ならびに第25条第1項第2号(2) の年齢を超える者を教育職員または事務職員として採用する場合の取扱いについては、「南山大学職員規則」の定めるところによる。

（省 略）

南山大学職員規則

（教員の定年に関する規定の抜粋）

（省 略）

第 3 章 採 用

（省 略）

第13条 「南山大学就業規則」第25条第1項第1号(2)および第25条第1項第2号(1)に定める本学定年退職者を、教育職員または事務職員として再採用することができる。ただし、その任期は、満68歳に達する年の学年度末を限度とし、とくに必要のある場合も、満70歳に達する年の学年度末を限度とする。

② 他大学定年退職者および本学定年年齢を超えた者の新採用についても、前項但書の規定を準用する。

③ 事務職員等の60歳定年の者および60歳を超えて降格により定年になる者の再雇用については、「南山学園事務職員等の再雇用制度に関する規程」の定めるところによる。

（省 略）

附 則

1 本則第13条但書の規定にかかわらず、やむを得ない事情があるときは、満70歳を超えてその任期を定めることができる。

（省 略）

<資料4-1> 国際機関・多国籍企業で働くことを志向した履修モデル

		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	小計	
共通教育科目	必修科目	8	情報倫理	2	キリスト教概論	2				8	
			基礎体育A	1							
	基礎体育B		1								
	宗教論		2								
	選択必修科目	4	4	政治・経済と人間の尊厳	2	民族問題と人間の尊厳	2			4	
	基礎・学際	8	8	経済学A	2	地誌概論	2			8	
外国語科目	英語	8	英語I～IVオーラルコミュニケーション	4	異文化との接触	2				8	
			英語I～IVリテラシー	4							
	他外国語	3	フランス語I	1	フランス語II	1					フランス語III
国際教養学基礎科目	基礎科目	15	GLS English I～IV	4	Advanced English Communication	1				15	
			学びの技法	2	Advanced English Literacy	1					
			ICTリテラシー	2	GLS English V	1					
			キャリアデザインI	2	キャリアデザインII	2					
			選択必修科目	3	GLSフランス語I	1					GLSフランス語III
	市民的教養の基礎科目	8	国際教養学入門	2	多元文化論A	2				8	
			国際教養学概論	2							
	選択必修科目	2	シティズンシップ論A	2	Citizenship B	2				2	
	基礎学問科目	2	創造的・批判的思考	2						2	
			選択科目	6	国際経済学	2	国際協力論	2	国際関係論	2	
	グローバルズ科目・スタディーズ科目	必修科目	12	グローバル・スタディーズ概論 A	2			グローバル化と文化・文学	2		12
								グローバル化と社会	2		
		基礎科目	12	Introduction to Global Studies B	2	グローバル化と国際関係	2	グローバル化と開発経済	2	グローバル化と国際協力	2
	サステイナビリティ・スタディーズ科目	必修科目	8	サステイナビリティ・スタディーズ概論 A	2	Introduction to Sustainability Studies B	2	サステイナビリティと環境倫理	2		8
								サステイナビリティと民族・文化	2		
基礎科目		4			サステイナビリティと地域社会	2	サステイナビリティと国際問題	2		4	
選択科目	2			Special Topics: Sustainability Studies B (Environment and Development Studies)	2	Special Topics: Sustainability Studies D (Political and Economic Studies)	2		4		
演習科目	必修科目	5					演習I	1		5	
							アドヴァンスト演習I, II	2			
選択必修科目	2						基礎演習A	1		3	
地域研究科目	6						基礎演習B	1			
実践知形成科目	-						PBL演習C(社会)	1			
自由選択科目	6以上	共通教育科目のうち英語展開科目・スポーツ科目・実践知形成科目、国際教養学科科目のうちで所定の単位数を超過して修得した科目(例.GLSフィールドワーク、および外国語学部開講科目(例.海外フィールドワーク、ただし他学部・他学科履修不可科目は除く)									
合計(124単位以上)			40		33		34		17	124	

<資料4-2> 国際NGO/NPOで働くことを志向した履修モデル

		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	小計		
共通教育科目	必修科目	8	情報倫理	2	キリスト教概論					8		
			基礎体育A	1							基礎体育B	1
	選択必修科目	人間の尊厳科目	4		宗教にみる人間の尊厳	2					4	
		基礎・学際	8	社会システムと環境 環境と倫理問題	2 2	人文地理学 倫理学	2 2				8	
	外国語科目	英語	8	英語I～IVオーラルコミュニケーション 英語I～IVリテラシー	4 4						8	
他外国語		3		スペイン語I スペイン語II	1 1	スペイン語III	1			3		
学科科目	国際教養学基礎科目	基礎知識の必修科目	15	GLS English I～IV 学びの技法 ICTリテラシー キャリアデザインI	4 2 2 2	Advanced English Communication Advanced English Literacy GLS English V キャリアデザインII	1 1 1 2				15	
			選択必修科目	3		GLSスペイン語I GLSスペイン語II	1 1	GLSスペイン語III	1		3	
		市民的教養の必修科目	8	国際教養学入門 国際教養学概論 シティズンシップ論A	2 2 2	多元文化論A	2					8
			選択必修科目	2		Citizenship B	2					2
		基礎知識の選択科目	2	創造的・批判的思考	2							2
	グローバル・スタディーズ科目	必修科目	12	グローバル・スタディーズ概論 A	2		グローバル化と文化・文学 グローバル化と社会 グローバル化とメディア グローバル化と情報技術 グローバル化と民族・宗教	2 2 2 2 2			12	
		基幹科目	12		Introduction to Global Studies B	2	グローバル化と国際協力 グローバル化と開発経済 Special Topics: Global Studies B (Cultural Studies)	2 2 2	グローバル化と言語 Special Topics: Global Studies C (Religious and Social Studies)	2 2	12	
		必修科目	8	サステイナビリティ・スタディーズ概論 A	2	Introduction to Sustainability Studies B	2	サステイナビリティと環境倫理 サステイナビリティと民族・文化	2 2			8
		基幹科目	4				サステイナビリティと開発	2	サステイナビリティと国際問題	2	4	
		選択科目	2				Special Topics: Global Studies B (Environment and Development Studies)	2	Special Topics: Sustainability Studies C (Religious and Social Studies)	2	4	
	演習科目	必修科目	5					演習I アドヴァンスト演習I, II 卒業論文研究I, II	1 2 2		5	
		選択必修科目	2				基礎演習A PBL演習A(環境) PBL演習B(文化)	1 1 1			3	
	地域研究科目	6				地域研究科目から1科目	2	地域研究科目から1科目 地域研究科目から1科目	2 2	6		
	実践知形成科目	-				GLSフィールドワーク	3			3		
	自由選択科目	6以上	共通教育科目のうち英語展開科目・スポーツ科目・実践知形成科目、国際教養学科科目のうち所定の単位数を超過して修得した科目(例:GLSフィールドワーク)、および外国語学部開講科目(例:海外フィールドワーク、ただし他学部・他学科履修不可科目は除く)									
合計(124単位以上)			40		33		34		17	124		

＜資料4-3＞英語展開プログラム(主に留学生)履修モデル

			1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	小計							
共通教育科目	必修科目	情報倫理	2	キリスト教概論	2						8							
		基礎体育A	1															
	基礎体育B	1																
	宗教論	2																
	選択必修科目	人間の尊厳科目	4	思想史に学ぶ人間の尊厳	2							民族問題と人間の尊厳	2	4				
基礎・学際	南山大学の軌跡	2	日本との出会い	2			6											
外国語科目	英語	英語I～IVオーラルコミュニケーション	4					8										
		英語I～IVリテラシー	4															
	他外国語	日本語I	3					3										
国際教養学基礎科目	基法知目の必修科目	GLS English I～IV	4	Advanced English Communication	1						15							
		学びの技法	2	Advanced English Literacy	1													
	ICTリテラシー	2	GLS English V	1														
	キャリアデザインI	2	キャリアデザインII	2														
	選択必修科目	GLSアカデミック・ジャパニーズI, II	2	GLSアカデミック・ジャパニーズIII	1							3						
	市民的教養の必修科目	国際教養学入門	2	多元文化論A	2							8						
		国際教養学概論	2															
	選択必修科目	シティズンシップ論A	2															
	基学問知目の必修科目	創造的・批判的思考	2									2						
	選択科目		6	文学	2							文化論	2	メディア論	2	6		
グローバル・スタディーズ科目	必修科目	グローバル・スタディーズ概論 A	2			グローバル化と文化・文学	2	グローバル化と社会	2	グローバル化とメディア	2	グローバル化と情報技術	2	グローバル化と民族・宗教	2	12		
	基幹科目			Introduction to Global Studies B	2	Special Topics: Global Studies A (Linguistics)	2	Special Topics: Global Studies B (Cultural Studies)	2	Special Topics: Global Studies C (Religious and Social Studies)	2	Special Topics: Global Studies D (Communication Studies)	2	Special Topics: Global Studies E (Political Studies)	2	Special Topics: Global Studies F (Economic Studies)	2	14
サステイナビリティ・スタディーズ科目	必修科目	サステイナビリティ・スタディーズ概論 A	2	Introduction to Sustainability Studies B	2	サステイナビリティと環境倫理	2	サステイナビリティと民族・文化	2							8		
	基幹科目					サステイナビリティと開発	2	サステイナビリティと国際問題	2						4			
選択科目						Special Topics: Sustainability Studies A (Linguistics)	2	Special Topics: Sustainability Studies C (Religious and Social Studies)	2	Special Topics: Sustainability Studies D (Political and Economic Studies)	2					6		
演習科目	必修科目										演習I	1	アドヴァンスト演習I, II	2	卒業論文研究I, II	2	5	
選択必修科目						PBL演習B (文化)	1	PBL演習C (社会)	1							2		
地域研究科目						地域研究科目から1科目	2	地域研究科目から1科目	2							6		
実践知形成科目																0		
自由選択科目	6以上	共通教育科目のうち英語展開科目・スポーツ科目・実践知形成科目、国際教養学科科目のうちで所定の単位数を超過して修得した科目(例.GLSフィールドワーク)、および外国語学部開講科目(例.海外フィールドワーク、ただし他学部・他学科履修不可科目は除く)																
合計(124単位以上)			43	30	30	21	124											

<資料5>時間割モデル

国際教養学部1年次時間割モデル

曜日	クォーター	1時限(9:20-10:50)	教室	2時限(11:05-12:35)	教室	3時限(13:30-15:00)	教室	4時限(15:15-16:45)	教室
月	1	英語Iオーラルコミュニケーション	F21	情報倫理	S43	学びの技法	F28		
	2	英語IIオーラルコミュニケーション	F21	ICTリテラシー	S65	基礎体育A			
	3	英語IIIオーラルコミュニケーション	F21	国際教養学概論	G27	基礎体育B			
	4	英語IVオーラルコミュニケーション	F21	シティズンシップ論A	G27	サステイナビリティ・スタディーズ概論A	G28		
曜日	クォーター	1時限(9:20-10:50)	教室	2時限(11:05-12:35)	教室	3時限(13:30-15:00)	教室	4時限(15:15-16:45)	教室
火	1	英語Iリテラシー	新棟3階小教室	GLS English I	新棟3階小教室	基盤・学際科目1	E11		
	2	英語IIリテラシー	新棟3階小教室	GLS English II	新棟3階小教室	基盤・学際科目2	E11		
	3	英語IIIリテラシー	新棟3階小教室	GLS English III	新棟3階小教室	基盤・学際科目3	E11		
	4	英語IVリテラシー	新棟3階小教室	GLS English IV	新棟3階小教室	グローバル・スタディーズ概論A	G27	宗教論	MB11
曜日	クォーター	1時限(9:20-10:50)	教室	2時限(11:05-12:35)	教室	3時限(13:30-15:00)	教室	4時限(15:15-16:45)	教室
水	1	国際教養学入門	S23	国際教養学入門	S23				
	2	創造的・批判的思考	F38	創造的・批判的思考	F38				
	3	キャリアデザインI	S23	キャリアデザインI	S23				
	4								
曜日	クォーター	1時限(9:20-10:50)	教室	2時限(11:05-12:35)	教室	3時限(13:30-15:00)	教室	4時限(15:15-16:45)	教室
木	1	英語Iオーラルコミュニケーション	F21	情報倫理	S43	学びの技法	F28		
	2	英語IIオーラルコミュニケーション	F21	ICTリテラシー	S65	基礎体育A			
	3	英語IIIオーラルコミュニケーション	F21	国際教養学概論	G28	基礎体育B		GLSアカデミック・ジャパニーズI	F26
	4	英語IVオーラルコミュニケーション	F21	シティズンシップ論A	新棟3階小教室	サステイナビリティ・スタディーズ概論A	G28	GLSアカデミック・ジャパニーズII	F26
曜日	クォーター	1時限(9:20-10:50)	教室	2時限(11:05-12:35)	教室	3時限(13:30-15:00)	教室	4時限(15:15-16:45)	教室
金	1	英語Iリテラシー	新棟3階小教室	GLS English I	新棟3階小教室	基盤・学際科目1	E11		
	2	英語IIリテラシー	新棟3階小教室	GLS English II	新棟3階小教室	基盤・学際科目2	E11		
	3	英語IIIリテラシー	新棟3階小教室	GLS English III	新棟3階小教室	基盤・学際科目3	E11		
	4	英語IVリテラシー	新棟3階小教室	GLS English IV	新棟3階小教室	グローバル・スタディーズ概論A	G27	宗教論	MB11

国際教養学部2年次時間割モデル

曜日	クォーター	1時限(9:20-10:50)	教室	2時限(11:05-12:35)	教室	3時限(13:30-15:00)	教室	4時限(15:15-16:45)	教室
月	1	多元文化論	G25	Advanced English Communicatoin	新棟3階小教室	Advanced English Literacy	新棟3階小教室	GLS English V	F21
	2	Introduction to Global Studies B	MB1						
	3			民族学	F21	インドネシア語I	H12	キャリアデザインII	M2
	4	地域研究科目2	B31	情報技術史	F22	インドネシア語II	H12		
曜日	クォーター	1時限(9:20-10:50)	教室	2時限(11:05-12:35)	教室	3時限(13:30-15:00)	教室	4時限(15:15-16:45)	教室
火	1			国際経済学	FB2	人間の尊厳科目1	G23	キリスト教概論	HB2
	2	Citizenship B	MB1						
	3	GLSインドネシア語I	F26			地域研究科目1	B11	人間の尊厳科目2	E12
	4	GLSインドネシア語II	F26	国際関係論	FB2	文学	F27		
曜日	クォーター	1時限(9:20-10:50)	教室	2時限(11:05-12:35)	教室	3時限(13:30-15:00)	教室	4時限(15:15-16:45)	教室
水	1								
	2	Introduction to Sustainability Studies B	MB1	Introduction to Sustainability Studies B	MB1				
	3								
	4								
曜日	クォーター	1時限(9:20-10:50)	教室	2時限(11:05-12:35)	教室	3時限(13:30-15:00)	教室	4時限(15:15-16:45)	教室
木	1	多元文化論	F38	Advanced English Communicatoin	新棟3階小教室	Advanced English Literacy	新棟3階小教室	GLS English V	F21
	2	Introduction to Global Studies B	MB1						
	3			民族学	F21	インドネシア語I	H12	キャリアデザインII	M2
	4	地域研究科目2	B31	情報技術史	F22	インドネシア語II	H12		
曜日	クォーター	1時限(9:20-10:50)	教室	2時限(11:05-12:35)	教室	3時限(13:30-15:00)	教室	4時限(15:15-16:45)	教室
金	1			国際経済学	FB2	人間の尊厳科目1	G23	キリスト教概論	HB2
	2	Citizenship B	MB1						
	3	GLSインドネシア語I	F26			地域研究科目1	B11	人間の尊厳科目2	E12
	4	GLSインドネシア語II	F26	国際関係論	FB2	文学	F27		

国際教養学部3年次時間割モデル

曜日	クォーター	1時限(9:20-10:50)	教室	2時限(11:05-12:35)	教室	3時限(13:30-15:00)	教室	4時限(15:15-16:45)	教室
月	1	インドネシア語III	L13	グローバル化と社会	E12	地域研究科目3	MB12		
	2								
	3	グローバル化と情報技術	M2	Special Topics: Global Studies B (Cultural Studies)	G22	グローバル化とメディア	EB1		
	4			グローバル化と民族・宗教	G28			Special Topics: Global Studies C (Religious and Social Studies)	G24
曜日	クォーター	1時限(9:20-10:50)	教室	2時限(11:05-12:35)	教室	3時限(13:30-15:00)	教室	4時限(15:15-16:45)	教室
火	1	GLSインドネシア語III	F24	サステイナビリティと環境倫理	G25	グローバル化と文化・文学	G27		
	2								
	3	サステイナビリティと民族・文化	K21	グローバル化と開発経済	G21	サステイナビリティと国際問題	K21		
	4			グローバル化と国際協力	G25	Special Topics: Sustainability Studies D (Political and Economic Studies)	G23		
曜日	クォーター	1時限(9:20-10:50)	教室	2時限(11:05-12:35)	教室	3時限(13:30-15:00)	教室	4時限(15:15-16:45)	教室
水	1	基礎演習A	新棟3階小教室						
	2	基礎演習B	新棟3階小教室	GLSフィールドワーク	F21				
	3								
	4								
曜日	クォーター	1時限(9:20-10:50)	教室	2時限(11:05-12:35)	教室	3時限(13:30-15:00)	教室	4時限(15:15-16:45)	教室
木	1	インドネシア語III	L13	グローバル化と社会	E12	地域研究科目3	MB12		
	2								
	3	グローバル化と情報技術	M2	Special Topics: Global Studies B (Cultural Studies)	G22	グローバル化とメディア	EB1		
	4			グローバル化と民族・宗教	G28			Special Topics: Global Studies C (Religious and Social Studies)	G24
曜日	クォーター	1時限(9:20-10:50)	教室	2時限(11:05-12:35)	教室	3時限(13:30-15:00)	教室	4時限(15:15-16:45)	教室
金	1	GLSインドネシア語III	F24	サステイナビリティと環境倫理	G25	グローバル化と文化・文学	G27		
	2								
	3	サステイナビリティと生態系	K21	グローバル化と開発経済	G21	サステイナビリティと国際問題	K21		
	4			グローバル化と国際協力	G25	Special Topics: Sustainability Studies D (Political and Economic Studies)	G23		

国際教養学部4年次時間割モデル

曜日	クォーター	1時限(9:20-10:50)	教室	2時限(11:05-12:35)	教室	3時限(13:30-15:00)	教室	4時限(15:15-16:45)	教室
月	1			グローバル化と国際関係	G25				
	2	グローバル化と言語	S65						
	3	サステイナビリティと民族・文化	G28			地域研究科目4	DB1		
	4								
曜日	クォーター	1時限(9:20-10:50)	教室	2時限(11:05-12:35)	教室	3時限(13:30-15:00)	教室	4時限(15:15-16:45)	教室
火	1	サステイナビリティと地域社会	H24						
	2								
	3						卒業論文研究I	新棟3階小教室	
	4			Special Topics: Global Studies E (Political Studies)	S72		卒業論文研究II	新棟3階小教室	
曜日	クォーター	1時限(9:20-10:50)	教室	2時限(11:05-12:35)	教室	3時限(13:30-15:00)	教室	4時限(15:15-16:45)	教室
水	1								
	2								
	3								
	4								
曜日	クォーター	1時限(9:20-10:50)	教室	2時限(11:05-12:35)	教室	3時限(13:30-15:00)	教室	4時限(15:15-16:45)	教室
木	1			グローバル化と国際関係	G25				
	2	グローバル化と言語	S65						
	3	サステイナビリティと民族・文化	G28			地域研究科目4	DB1		
	4								
曜日	クォーター	1時限(9:20-10:50)	教室	2時限(11:05-12:35)	教室	3時限(13:30-15:00)	教室	4時限(15:15-16:45)	教室
金	1	サステイナビリティと地域社会	H24				演習I	新棟3階小教室	
	2						演習II	新棟3階小教室	
	3						アドヴァンスト演習I	新棟3階小教室	
	4			Special Topics: Global Studies E (Political Studies)	S72		アドヴァンスト演習II	新棟3階小教室	

<資料 6> 実習施設一覧

1. 短期留学

実習施設名	所在地	受入可能人数	備考
Arizona State University	Tempe, AZ 85281, United States	150 名	

2. GLS フィールドワーク

実習施設名	所在地	受入可能人数	備考
Universitas Padjadjaran	Jl. Dipati Ukur No.35, Bandung 40132, INDONESIA	20 名	
University of Indonesia	Depok, West Java 16424, INDONESIA	20 名	
The George Washington University	2121 I Street, NW Washington, DC 20052 U.S.A.	20 名	
City University of New York Queens College	65-30 Kissena Boulevard, Flushing, NY 11367 U.S.A.	20 名	
Ecole de Management Bretagne Atlantique	1, avenue de la Plage des Gueux, 29000, Quimper, FRANCE	20 名	
Institut für Internationale Kommunikation e. V.	IIK Düsseldorf Palmenstraße 25 40217 Düsseldorf DEUTSCHLAND	20 名	
University of San Carlos	University of San Carlos P. del Rosario Street, Cebu City, Philippines 6000	20 名	
Northern Kentucky University	Nunn Drive Highland Heights, Kentucky 41099 U.S.A.	20 名	

編入学等による入学者の既修得単位に関する内規

この内規は、南山大学学則第 26 条及び南山大学授業科目履修規程第 24 条に基づき、他大学等より本学に編入学あるいは転入学したものの既修得単位の認定について定める。

(既修得単位の範囲)

- 1 本学は、他の大学等（外国における大学等を含む。）から編入学あるいは転入学した者に対して、その出身大学等で修得した単位（以下「既修得単位」という。）につき、既修得単位数の範囲内で、本学における共通教育科目、学部共通科目、学科科目、教職に関する科目、博物館に関する科目又は司書及び司書教諭に関する科目の修得単位として認定することができる。
ただし、高等専門学校卒業者の場合は、第 4 年次及び第 5 年次に修得した単位に限られる。

(認定単位数の範囲)

- 2 認定できる単位数は所属する学部・学科の卒業に必要な総単位数の 2 分の 1 までとする。
ただし、既修得単位が卒業に必要な総単位数の 2 分の 1 に満たない場合は、既修得単位を限度とする。

(認定の方法)

- 3 認定は、「包括認定」と「読み替え認定」とによって行う。
 - (1) 次の各号のいずれかに該当する者については、各学部・学科の卒業要件のうち、まず 50 単位を上限として既に修得したものとして包括認定をすることができる。
ただし、既修得単位が 50 単位に満たない場合は、既修得単位を限度として包括認定をすることができる。
 - (イ) 短期大学を卒業した者
 - (ロ) 高等専門学校を卒業した者
 - (ハ) 大学に 2 年以上在学し 62 単位以上を修得したもの
 - (ニ) 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たす課程を修了した者
- (2) 読み替えにより単位を認定される科目（2 科目以上併合して 1 科目とすることもある。）は、その内容が本学開設科目に相当するものでなければならない。
ただし、テーマ科目に関しては、10 単位を一括して既修得と認定することができる。
- (3) 包括認定の詳細については各学部・学科が定める。ただし、宗教科目 4 単位分は包括

認定の対象とせず、「読み替え」の原則に従う。

(認定申請)

- 4 認定を希望する学生は、以下の書類を教務課に提出しなければならない。
 - (1) 認定を受けようとする科目の成績証明書
 - (2) 認定を受けようとする科目の講義概要（シラバス等を含む。）
 - (3) 単位修得認定願

(認定原案作成者)

- 5 既修得単位の認定原案作成者は次のとおりとする。
 - (1) 共通教育科目については、共通教育主任とする。
 - (2) 学部共通科目及び学科科目については、所属学科長とする。ただし、学科科目の認定にあたり、他学部、他学科開講の科目を認定する必要がある場合は、当該学科長と協議し、その承認印を必要とする。
 - (3) 教職に関する科目については、教職課程委員会委員長とする。
 - (4) 博物館に関する科目については、博物館学芸員養成課程委員会委員長とする。
 - (5) 司書及び司書教諭に関する科目については、司書課程・学校図書館司書教諭課程委員会委員長とする。
 - (6) 包括認定する場合には、所属学科長が必要に応じて共通教育主任及び関係学科長と協議の上、原案を作成する。

(単位認定手続き・単位認定者)

- 6 単位認定は、認定原案を教務委員会で承認した後、学部教授会において審議し、学部長がこれを行う。
- 7 学部教授会において承認された後は、原則として申請の変更は認めない。

附 則

この内規は、平成 8 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この内規の改正は、平成 11 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この内規の改正は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

<資料8>編入学後の履修モデル

		卒業要件	3年次						4年次						小計				
			Q1	単位	Q2	単位	Q3	単位	Q4	単位	Q1	単位	Q2	単位		Q3	単位	Q4	単位
共通教育科目		31以上						宗教論	2	キリスト教概論	2							4	
学 科 科 目	国際教養学基礎科目	技法知の 必修科目	15															0	
		選択必修科目	3															0	
		市民的教養の 必修科目	8	国際教養学入門	2			国際教養学概論	2										4
		選択必修科目	2									Multiculturalism	2						2
		基学 基礎科目	2																0
		選択科目	6																0
	グ ロー バ リ ズ ル ・ ス タ	必修科目	12	グローバル化と文化・文学	2		グローバル化とメディア	2	グローバル・スタディーズ概論 A グローバル化と民族・宗教	2	グローバル化と社会	2		グローバル化と情報技術	2			12	
		基幹科目	12	グローバル化と国際関係	2		グローバル化と開発経済	2	グローバル化と国際協力	2	Special Topics: Global Studies F (Economic Studies)	2	グローバル化と言語	2		Special Topics: Global Studies C (Religious and Social Studies)	2	12	
	サ ス テ イ ナ ビ リ テ ィ ・ ス タ	必修科目	8					サステイナビリティ・スタディーズ概論 A	2	サステイナビリティと環境倫理	2	Introduction to Sustainability Studies B	2	サステイナビリティと民族・文化	2			8	
		基幹科目	4							サステイナビリティと開発	2	サステイナビリティとエネルギー問題	2	サステイナビリティと国際問題	2			6	
		選択科目	2				Special Topics: Sustainability Studies C (Religious and Social Studies)	2										2	
	演 習 科 目	必修科目	5								演習I	1		アドヴァンスト演習I 卒業論文研究I	1	アドヴァンスト演習II 卒業論文研究II	1	5	
		選択必修科目	2		基礎演習B	1	PBL演習B(文化)	1				演習II	1					3	
	地域研究科目		6				地域研究科目から1科目	2	地域研究科目から1科目	2	地域研究科目から1科目	2	地域研究科目から1科目	2				8	
	実践知形成科目		-		GLSフィールドワーク	3												3	
自由選択科目		6以上	共通教育科目のうち英語展開科目・スポーツ科目・実践知形成科目、国際教養学教科科目のうち所定の単位数を超過して修得した科目(例:GLSフィールドワーク)、および外国語学部開講科目(例:海外フィールドワーク、ただし他学部・他学科履修不可科目は除く)																
合計(124単位以上)			6	4	11	12	13	11	8	4	69								

※既修得単位の認定:62単位を上限とする

南山大学教授会規程

第1条 学則第41条による教授会は、この規程による。

第2条 教授会は、各学部教授、准教授、講師をもって組織する。ただし、必要に応じて助教を加えることができる。この場合には、助教は議決権を有しない。

第3条 教授会は、各学部長が招集し、その議長となる。学部長が差支えのあるときは、学部長はその代理者を指名する。

第4条 教授会の定例会議は、毎月1回これを開く。ただし、時宜により休会することがある。臨時会議は、学部長が必要と認めた時、または教授会構成員5名以上の要求があった時、学部長がこれを招集する。

第5条 教授会の定数は、教授、准教授、専任講師の現在員とする。ただし、海外留学、国内留学および休職中のものは加えない。

第6条 教授会は、定数の3分の2以上出席しなければ、これを開くことができない。

第7条 教授会の審議承認は、その出席者の過半数により、可否同数のときは、議長の決定するところによる。ただし、各学部所属の教員の進退および所属に関する事項については、出席者の3分の2以上の同意を必要とする。

第8条 教授会に書記を置き、議事録を作成させる。議事録は、学部長が保管し、教授会構成員の要求があれば、その閲覧に供しなければならない。書記は、学部長がこれを委嘱する。

第9条 教授会は、以下の各号に掲げる事項を審議し、学長が決定を行うにあたり意見を述べる。

- 1 学生の入学、卒業および課程の修了に関する事項
 - 2 学位の授与に関する事項
 - 3 その他教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が別に定める事項
- ② 教授会は、前項に規定するもののほか、教育研究に関する重要な事項について審議し、意見を述べることができる。
- ③ 学部教授会に関する規程は別に定める。

附 則

この規程は、昭和32年3月4日から施行する。

附 則

この規程の改正は、昭和41年2月18日から施行する。

附 則

この規程の改正は、昭和43年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、昭和45年3月31日から施行する。

附 則

この規程の改正は、昭和48年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、昭和52年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、2007年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、2015年4月1日から施行する。

南山大学学部長候補者選挙規程基準

- 1 本学における学部長候補者の選挙は、本選挙規程基準に基づき、各学部の定める選挙規程によってこれを実施する。
 - 1 学部長候補者の選挙は、当該学部教授会において行なうこと。
 - 2 学部長候補者の選挙は、学部長の任期満了の場合には、その満了前3ヶ月以上、4ヶ月以内の時期に、その他の場合には、当該学部教授会が予め定めた時期にこれを行なうこと。
 - 3 学部長の任期は、2年とすること（4月1日から翌々年の3月31日まで）。ただし、学部長が任期中に欠員となった場合には、後任学部長の任期は、前任者の残任期間とすること。
 - 4 選挙資格者は、選挙当日に在職する当該学部の教授、准教授、講師および助教とすること。
 - 5 被選挙資格者は、当該学部専任教授とすること。
 - 6 選挙期日については、少なくとも会日の7日前に有権者全員に対し通知を発すること。
 - 7 学部長候補者の選挙には、有権者全員の4分の3以上の参加を必要とすること。
 - 8 学部長候補者の選挙は、単記無記名投票により行なうこと。
 - 9 全投票数の過半数の得票者をもって当選者とすること。
 - 10 投票の結果、全投票数の過半数の得票者がいないときは、高点者2名（高点者と同一の得票者がある場合には、同一得票者を含めて）について再投票を行なうこと。
 - 11 原則として、当選者は、学部長候補者となることを辞退できないこと。
 - 12 学部長候補者選挙規程の改正は、当該学部教授会の3分の2の賛成をもって、これを学長に提案することができること。
- 2 本学部長候補者選挙規程基準の改正は、各学部教授会の発議に基づき、大学評議会において3分の2の賛成をもって、これを学長に提案することができる。

附 則

この基準は、昭和45年2月6日から施行する。

附 則

この基準の改正は、2007年4月1日から施行する。

附 則

この基準の改正は、2015年4月1日から施行する。

南山大学管理職制（抜粋）

（省 略）

第11条 学部長は、当該学部教授会によって選挙され、大学評議会の議を経て学長が推薦する候補者について、理事会の承認を得て、理事長がこれを任命する。任期は、2年とする。

第12条 学部長は、次の職務を行う。

- 1 学部長は、当該学部の学務を管理し、所属職員を統括する。
- 2 学部長は、当該学部の教授会を招集し、その議長となる。

（省 略）

授業コード	XXXXX-XXX	科目名	キャリアデザイン I	担当者	平岩恵里子		
開講期間	第3Q	単位数	2	学年	1	指定	必
履修対象学科	国際教養学科						
他学科履修							
他の科目との関連							

【副題】

真の自己実現に向けて I –なぜ学ぶか

【授業概要】

グローバル化が進む国際社会において「働く」ということは、異なる言語、文化、価値を持つ人々と共に働く＝「協働」することである。大学4年間の学びのなかで、国際社会が抱える諸問題を「協働」して解決できる能力を養い、その能力を、卒業後にどのような場で、どのような人々と、どのような目的を共有して解決していくのかについて入学直後から幅広い視点で考えることを目的とする。まず、自分がどのような人間で、何に情熱を持って取り組むことができるかを自らに問うことを通して考える。

【到達目標】

- 1) まず、自分がどのような人間で、何に関心や情熱を持っているかを知るために、自己を相対化する座標軸を得ることができる。次年度に予定されている留学も念頭に置き、自分の周囲を越えた空間の広がりの中で学ぶこと、働くことの意味を問い、現在の学びをより良い人生につなぐための視点を獲得することができる。
- 2) そのような、自分の周りを大きく超えた空間に暮らす人々と共に働く＝協働することを念頭に置き、そのためには大学で何を学ぶ必要があり、留学の目的は何か、を自覚する。

【授業計画】

1. オリエンテーション(本講義の目的を十分に理解する。講義方法の説明を受ける)
2. 未来の自分—自己分析と目標設定1
3. 働く自分—働くことの意義とは
4. 講義3を踏まえ、グループによる討論・発表1
5. 社会が生む課題と利益にどう向き合うか
6. 講義5を踏まえ、グループによる討論・発表2
7. 学問と自分 1—何をどのように学びとるか
8. 講義7を踏まえ、グループによる討論・発表3
9. 学問と自分 2—学習の先にあるものは何か
10. 講義9を踏まえ、グループによる討論・発表4
11. 実践1—情報とコミュニケーション
12. 講義11を踏まえ、グループによる討論・発表5
13. 実践2—組織とリーダーシップ
14. 講義13を踏まえ、グループによる討論・発表6
15. 自己分析と目標設定2

【授業時間外の学習（準備学習等）】

各討論・発表の講義前にレポート提出。

【評価方法】

- 1) 第2回講義後の自己分析レポート(1回)及び各討論・発表の講義前(3,5,7,9,11,13回終了後)に出すレポート (計6回) 30%
- 2) グループ討論への参加度 40%
- 3) 学期終わりの最終レポート 30%

【テキスト／参考文献】

適宜指示する。

【その他】

なし

授業コード	XXXXX-XXX	科目名	キャリアデザインⅡ	担当者	平岩恵里子		
開講期間	第3Q	単位数	2	学年	2	指定	必
履修対象学科	国際教養学科						
他学科履修							
他の科目との関連							

【副題】

真の自己実現に向けてⅡ—国際社会とどう向き合うか

【授業概要】

「キャリアデザインⅠ」を踏まえ、実際に国際社会で活躍している国際公務員、国際NGO/NPO職員、国際企業人など外部講師による講義を通して、自らの進路や将来について具体的にデザインできるようになることを目的とする。自己に合わせた将来のキャリアパスを思い描き、実現をしていくにはどのような実践が必要であるか、理解し、行動することができるようになる。

【到達目標】

- 1) キャリアデザインⅠで設定した自己目標(自らの関心事と情熱)、及び2年第2Qの留学経験、あるいはそれまでの大学での学習と経験等、そのすべてを統合し、自分がこの国際社会で何をなすべきか、という具体的な関心事や情熱を獲得する。
- 2) 自分の人生設計をどのような分野、フィールド、組織であれば実現できるかを具体的に考えることができる。すなわち、卒業後の進路を具体的にイメージし、そのために必要となる専門知識を3年・4年でどのように習得するか計画することができる。

【授業計画】

1. オリエンテーション(本講義の目的を十分に理解する。講義方法の説明を受ける)
2. 自己分析と目標設定1
3. 国際協力/援助の実際1
4. 講義3を踏まえ、グループによる討論・発表1
5. 国際協力/援助の実際2
6. 講義5を踏まえ、グループによる討論・発表2
7. 国際公務員の実際1
8. 講義7を踏まえ、グループによる討論・発表3
9. 国際公務員の実際2
10. 講義9を踏まえ、グループによる討論・発表4
11. グローバル企業の実際1
12. 講義11を踏まえ、グループによる討論・発表5
13. グローバル企業の実際2
14. 講義13を踏まえ、グループによる討論・発表6
15. 自己分析と目標設定2

【授業時間外の学習(準備学習等)】

各討論・発表の講義前にレポート提出。

【評価方法】

- 1) 第2回講義後の自己分析レポート(1回)及び各討論・発表の講義前(3,5,7,9,11,13回終了後)に出すレポート(計6回) 30%
- 2) グループ討論への参加度 40%
- 3) 学期終わりの最終レポート 30%

【テキスト/参考文献】

適宜指示する。

【その他】

なし

CAREER SUPPORT GUIDE

キャリアサポートガイド2016

あなたの未来をサポートします

NANZAN
UNIVERSITY

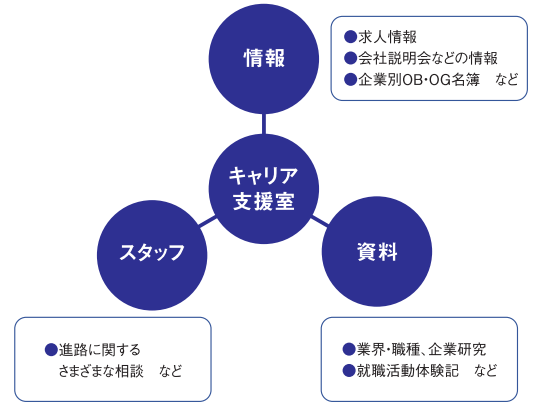
キャリア支援室を利用して 将来の可能性を広げよう

キャリア支援室では、皆さんの進路選択のきっかけづくりになる多彩なプログラムを実施し、多くの選択肢の中から自分の夢を見出して自発的に行動できる環境を整えています。

何より大切なのは、自分で見聞きし体験し、行動して夢をつかみ取ること。

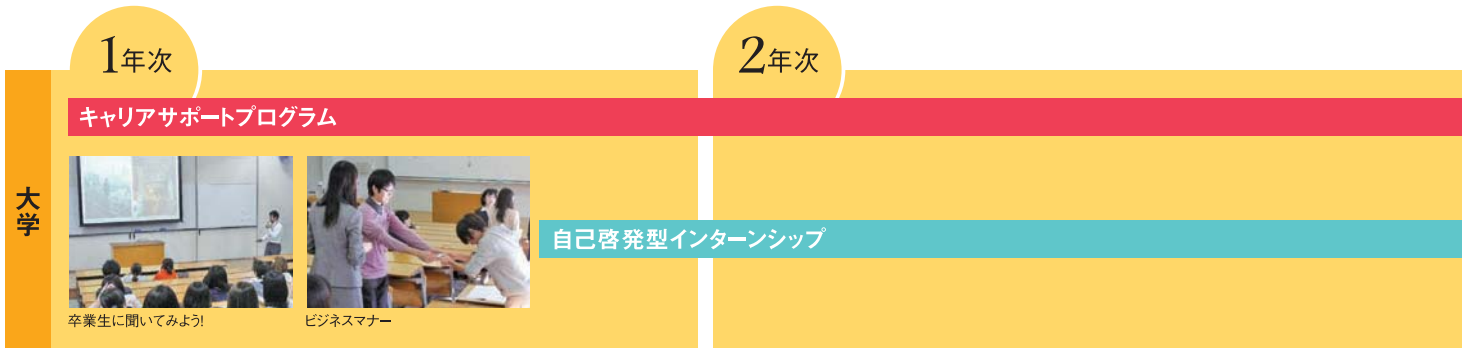
そのために私たちは、全力でサポートしていきます。

ぜひ、皆さんもキャリア支援室を利用してみましょう。



3つのプログラムを柱とした4年間のキャリアサポートの流れ

1年次から段階的にキャリア支援を展開。多彩なプログラムで、適性に合ったキャリアデザインを支援しています。



Support 1

キャリアサポートプログラム

1年次からスタートするプログラムは、学生の自主性を尊重するために、自由参加型の形式をとっています。これにより型にはまったキャリア教育ではなく、「自らが選択すること」をベースとした自己形成の場を提供し、それぞれの夢への挑戦をサポートします。

希望進路別ガイダンス

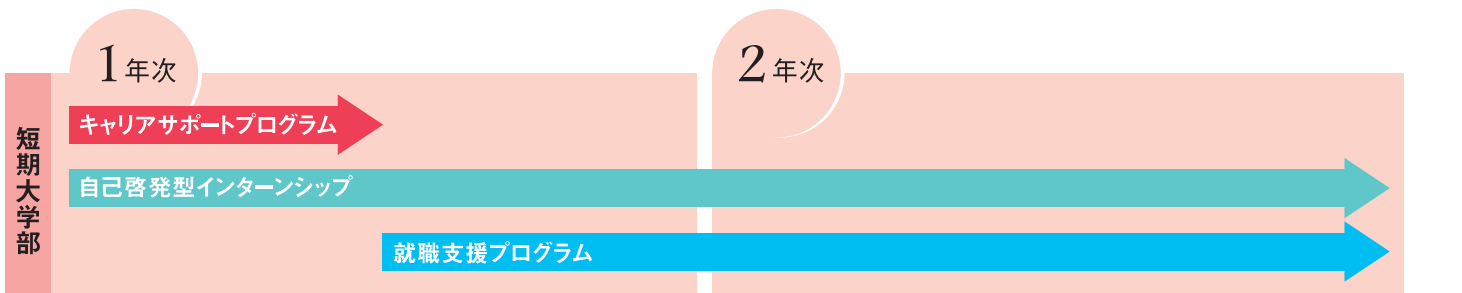
2016年度プログラム(予定)	参加者の声
4月 ● 新生オリエンテーション ● 学科別学び方講座(1年次生対象)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段の何気ない生活のサークルやアルバイトの中に、大切な出会いや視野を広げてくれるものがあることに気がきました。(経営学部) ・ 「自分ではできない」と決めつけて選択肢を狭めるのではなく、自分の想いに忠実に職業選択をされていて参考になりました。学生時代から意識することで、社会で通用する力を身につけたいです。(法学部)
5月 ● 希望進路別ガイダンス(民間企業、公務員、進学)	
6月 ● 卒業生に聞いてみよう!	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職活動に入る直前ではなく、それまでにどこまで自分を磨けるかが大事だと感じました。(人文学部) ・ マスコミ業界を目指すために、どのような学生生活を送れば良かったかわかりました。(外国語学部)
7月 ● キャリアデザイン講演会	
10月 ● キャリアを考えよう! ● 希望進路別ガイダンス(エアライン、マスコミ) ● テーマ別ワークショップ 一海外と携わる仕事とは／営業職の仕事は／社会人基礎力育成セミナー など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文系の私には関係ない分野だと思っていましたが、考えが変わりました。(経済学部) ・ 商社について漠然としたイメージしか持っていませんでしたが、今回の説明を聞いて理解が深まりました。(総合政策学部) ・ 講師が南山の先輩で、親しみやすく内容もわかりやすかったです。不安なことを質問できてモヤモヤを1つ解消できました。(理工学部)
11月 ● 業界・職種研究会(11月～2月)	
2月 ● 卒業生キャリア・アドバイザーとの交流会	

Support 2

インターンシップ

インターンシップとは「学生が在学中に、自らの専攻、キャリアに関連した就業体験を行う教育プログラム」です。職業への意識を高めたり、自分の適性を知るという点で大きな意義を持つ制度です。

インターンシップ研修(ビジネスマナー研修)



柱となる3つのプログラム



キャリアに関する情報提供は <http://office.nanzan-u.ac.jp/CAREER/>

学内で行われるキャリアに関する講演会・行事等の開催情報は、学内掲示とともに PORTA(裏表紙参照)や**キャリア支援室Webページ**(左記URL)でお知らせします。

“キャリア支援室”を利用しよう!

企業研究に大いに役立つ資料が充実

会社四季報・就職四季報や筆記試験対策資料、公務員や教員試験の参考資料も用意。企業研究に活用しよう!

経験豊富なスタッフがお応えします

就職に関する相談は予約不要で、いつでも対応しています。経験豊富なキャリアカウンセラーやスタッフが疑問・不安を一緒に解消します!「?」が浮かんだら、キャリア支援室へ。

万全のキャリア形成支援を用意

低年次から万全の体制で、学生のキャリア形成支援をサポートしていきます。1年次からスタートする「キャリアサポートプログラム」から始まり、「自己啓発型インターンシップ」「インターンシップ研修」、志望企業を決めるきっかけとなる「就職支援プログラム」など、早い段階で真剣に自らの将来を考え、自ら設定した目標を確実に実現できるようバックアップしています。積極的に参加しよう!

3年次

インターンシップ研修

就職支援プログラム

4年次



ビジネスマナー

インターンシップは以下の2種類があります

インターンシップ研修

対象年次 3年次生
単位 授業科目[通年2単位]

共通教育科目の授業として開講しており、2015年度は204名の学生が受入機関でのインターンシップを行いました。参加した学生からは、「社会人としての実体験を通して「働く」ことの意味を知り就業意識が高まった」「今後の勉学の目標が明確になり意欲が一段と向上した」との声が挙がっています。授業は説明会(2年次の秋学期)を経て、コミュニケーション入門、ビジネスマナー(2回)、自己理解、業界研究、プレゼンテーション等の事前研修、夏季休暇中に開催される企業等でのインターンシップ(5日間以上1~2週間程度)、各学生が発表を行うインターンシップ報告会およびまとめ研修からなる事後研修から構成されています。あなたもインターンシップ研修に参加し、働くことや社会、自分自身について新しい発見をしてください。



インターンシップ研修(インターンシップ報告会)

自己啓発型インターンシップ

対象年次 1年次生以上(短期大学部も1年次生以上)
単位 単位付与なし

単位取得とは関係なく、自分で受入先を開拓して行うインターンシップで、大学が受入機関との覚書締結やインターンシップ賠償責任保険の加入をサポートします。2015年度は69名が参加しました。(2015年10月30日現在)
●インターンシップガイダンス(5月下旬頃)
●自己理解・業界研究(6月上旬頃)
●ビジネスマナー(7月上旬頃)
※行事の日程・会場等の詳細は決まり次第 PORTA 等でお知らせします。

2015年度より株式会社名古屋銀行と「人材育成に関わる連携協定」を締結し、協定に基づくプログラムの1つとして「長期有償型インターンシップ」を実施しています。

長期有償型インターンシップ

対象年次 1~3年次生(20歳以上)
単位 単位付与なし

名古屋銀行と学生がパートタイマー契約を締結し、ビジネスマナー、銀行用語の事前研修を経て、実際に営業店にてロビーマネージャーとして勤務します。勤務期間中は、インストラクターによるOJT、自身の働き方についての中間発表及び最終発表を実施し、PDCAサイクルを回しながら就業経験のブラッシュアップを目指します。参加者からは、「ビジネスマナーだけでなく、自分から率先して行動する姿勢を身に着けられた」など、大きな成長を実感できたという声が多数寄せられています。

Support 3

就職支援プログラム

3年次から始まる就職支援プログラムは、ガイダンスや会社説明会、各種講座など充実した内容で学生の就職活動をバックアップ。卒業生や企業からも高い評価を得ています。



学内会社説明会(ブース形式)

就職ガイダンス(文系)(理系)

就職活動全般のオリエンテーションから始まり、自己分析、業界研究、就職活動の現状、南山大学の採用実績、キャリア支援室やポータルシステムから提供される就職情報の活用方法までわかりやすく説明。就職活動直前には、企業の人事担当者を引き、面接に関する説明・指導を行います。他にも、「Uターンガイダンス」「海外留学生就職ガイダンス」等を開講しています。

就職講座(文系)(理系)

【就職講座】
就職活動に不可欠な要素をテーマ別に開講していきます。(文理別に実施)
[2016年度テーマ(抜粋)]
●筆記試験対策 ●自己理解・自己PR
●業界・職種研究 ●企業研究
●志望動機 ●エントリーシートの書き方
●ビジネスマナー ●先輩の体験談 など
他にも「4年生向け就職講座」、「ES・面接準備ワークショップ」等を開講しています。

就職試験対策

インターネットを利用した就職試験対策プログラム(有料、1年間自宅でも何度でも受験できます)やSPI試験対策模試を実施しています。

キャリア教育セミナー(短期大学部)

短期大学部生向けに、就職活動の基礎から実践的な対策講座を実施します。編入を考えている方も、編入後に行う就職活動の概要を事前に知っておく絶好の機会です。

業界・職種研究会(キャリア入門)(11~2月)

主に卒業生を講師として引き、業界の動向や特徴、仕事内容などを詳しく解説してもらいます。一歩踏み込んだナマの情報に触れる絶好の機会です。

学内会社説明会

上場企業や中部の優良企業を中心に約450社が、南山大生のみを対象として企業別の説明会を行います。(文系対象:約350社、理系対象:約100社)毎年多くの学生で賑わいます。

公務員試験対策

公務員希望者のための支援を実施しています。
●公務員ガイダンス
●公務員模試(有料)
●業界・職種研究会(公務機関)
キャリア支援資料室には、過去問題集や各種参考書を多数揃えています。

就業体験から進路を考える「インターンシップ」

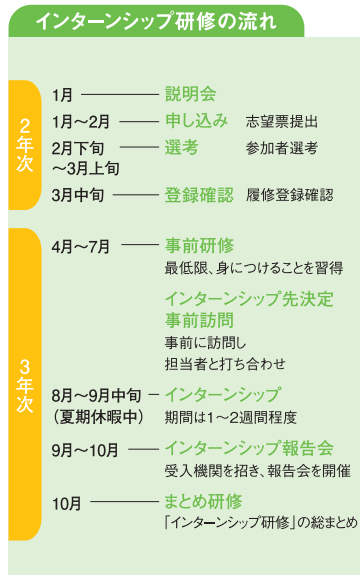
社会で働くとはどういうこと? その疑問を解決するひとつの手段としてインターンシップがあります。自分で体験し、社会や仕事について考えることができるこの機会を積極的に活用しましょう。



	対象年次	単位	受入先
インターンシップ研修	3年次生	通年2単位	大学が確認し、適切と認めた企業・機関を紹介
自己啓発型インターンシップ	1年次生以上	単位付与なし	自分で受入先を開拓

インターンシップとは、大学教育の一環として学生が在学中に一定期間、企業等で自分の専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う教育プログラムです。

本学では、2003年度より、「インターンシップ研修」を正規の授業科目として単位認定(通年、選択科目、2単位)し、3年次生を対象に「学生自身が明確な研修目的を持って参加する、事前研修・受入機関でのインターンシップ・事後研修からなる教育プログラム」として確立しました。また、単位取得とは関係なく、自分で受入先を開拓して行う「自己啓発型インターンシップ」という選択も可能です。キャリア支援室では必要に応じて、受入機関との覚書締結やインターンシップ賠償責任保険の加入等をサポートします。最近では日本経団連もインターンシップに言及しています。本学はその方針も踏まえ、インターンシップを重要なキャリア教育の一つとして取り扱います。



インターンシップ受入機関 (2015年10月30日現在)

- ### インターンシップ研修 [全76機関・204名]
- アルタ
 - ANA 中部空港
 - SMBC 日興証券
 - いちい信用金庫
 - キリックスリース
 - (キリックスグループ)
 - テンプスタッフ・ピープル
 - トヨタ L&F 中部
 - ネットヨタ東名古屋
 - (キリックスグループ)
 - ブラザー販売
 - 愛知県人事委員会
 - 岡崎商工会議所
 - 岡崎信用金庫
 - 岡谷鋼機
 - 南山高等・中学校女子部
 - AT グループ
 - mobility design
 - アイガ
 - エアランドー
 - エスワシステム
 - オービック
 - サンゲツ
 - ジェイエステイ
 - トヨタレンタリース愛知
 - ナゴヤキャスル
 - パソナグループ
 - メガネの和光
 - レオパレス21
 - 伊賀の里モクモク手づくりファーム
 - 羽根田商会
 - 紀伊國屋書店
 - 山田商会
 - (東邦ガスEPテクノグループ)
 - 十六銀行
 - 昭和
 - 瀬古写真館
 - mobility design
 - 大垣共立銀行
 - 電通
 - 八神製作所
 - 文楽堂
 - 名古屋観光ホテル
 - 名古屋銀行
 - 名大社
 - 名鉄百貨店
 - 蒲郡信用金庫
 - 丸善
 - 岐阜市役所
 - 岐阜信用金庫
 - あいち男女共同参画財団
 - 高見(TAKAMI BRIDAL)
 - 高山市役所
 - 三井住友海上火災保険
 - 三重交通
 - 三菱オートリース
 - 鹿島建設
 - 小島プレス工業
 - 瀬戸信用金庫
 - 西尾信用金庫
 - 損害保険ジャパン日本興亜
 - 知多メディアネットワーク
 - 東海東京フィナンシャル
 - ホールディングス
 - 東陽倉庫
 - 南山大学
 - 八木兵
 - 半田市役所
 - 尾西信用金庫
 - 碧海信用金庫
 - 豊橋信用金庫
 - 豊川信用金庫
 - 豊田信用金庫
 - 名古屋トヨベイト
 - 名古屋教育委員会
 - 生涯学習課(分室)
 - 名古屋市人事委員会
 - 名港海運
 - 名鉄観光サービス
 - 矢作建設工業
 - CBC 自動車学校

- ### 自己啓発型インターンシップ研修 [全48機関・69名]
- 愛西市役所
 - 愛知教育大学
 - 愛知県庁
 - 飯田市役所
 - 一宮市役所
 - AT グループ
 - SMBC 日興証券*
 - エスソーアイ
 - エスワシステム
 - オークマ*
 - オークマ*
 - 大阪少年鑑別所
 - 岡谷鋼機
 - 各務原市役所
 - 春日井市役所
 - 刈谷市役所
 - 岐阜県庁
 - 岐阜市役所
 - 岐阜労働局
 - 小牧市役所
 - JTB グループ
 - 静岡興行
 - 昭和
 - 住友生命保険
 - 瀬戸市役所
 - かがやき
 - 総合在宅医療クリニック
 - 多治見市役所
 - 津市NPサポートセンター
 - 鉄道情報システム
 - デル
 - デンソーテクノ
 - 東濃信用金庫
 - 東邦ガス
 - 豊川市役所
 - 豊田市役所
 - 豊橋市役所
 - 内閣官房内閣人事局
 - 名古屋市役所
 - 名古屋鉄道
 - 名古屋法務局
 - ホーユー
 - マスグループ本社
 - Man to Man
 - 三井住友海上火災保険
 - 三菱重工業
 - 美濃加茂市役所
 - ヤマナカ
 - レオパレス21

*大学院生

授業の中で就業について学ぶ「キャリア科目」

各学部の授業でも、将来の人生設計や仕事についてなどを学びます。学外から特別講師を招いての講義などもあり、実際の現場の声を聞くこともできます。



外国語学部 キャリアデザイン

外国語学部では1年次向けに「キャリアデザイン」科目を設置しています。この科目は、学生が主体的に人生設計をし、それに向けて意識的な大学生活を送るよう促すこと、また仕事を考えるうえでの学生の視野を広げることを趣旨として開講されています。授業は、外部講師による「特別講義」と小人数クラスでの「討論」が隔週で行われます。「特別講義」では、地元本社を持つ企業の海外勤務経験者に、個人的な勤務体験や海外での業務の実際、現地社会との関わりなどについて講



義していただき、「討論」の授業では、前週の「特別講義」での「気づき」について深く議論しながら、自身の人生設計を自ら考えます。

経済学部 自己とキャリアの形成

「自己とキャリアの形成」は、経済学部で開講しているキャリア科目のひとつで、将来の人生設計というキャリア形成に向けて、まず自分と向き合い、自己を高め、社会人として自立する能力を育成するための「種まき」を目的としています。講義のテーマは、社会人として求められる能力、自己分析と自己表現力、プレゼンテーション力、文章力、そしてコミュニケーション力の向上などです。この講義では、学生の積極的な発言や自主的な参加が求められます。また、3回の講義では、企業の人事担当者



を講師として、「キャリア形成のための学生時代の学び」について話していただいています。学生には、授業に刺激があり、また内容も非常に勉強になったと好評です。

人文学部 人文学とキャリア形成

この授業は人文学部の共通科目であり、2年次の秋学期から受講できる科目です。経済学や法学と聞くと、将来のキャリアにつながる学問というイメージがわくかもしれませんが、他方で人文学というほとんどキャリアにはつながらない、関係のない学問と考える人も多いでしょう。ところが、実際はそうではないのです。人文学とキャリアは様々に関係していますが、多くの人がその関係を見過しているのです。この授業のポイントは、その関係を探求していくところにあります。学部内外の



人生の先輩の経験談を聞いたり、グループで探究を進めたりといった作業を通して、自分が学んでいる人文学とキャリアの接点を見つめています。

短期大学部 ラーニング・コミュニティ(LC)

この授業は1年次、2年次の必修科目であり、「学習共同体(LC)」の中での学びを通して自己の成長を促す科目です。短期大学部は4年制の学部とは異なり、就職・編入・留学といった進路の選択を一早くしなければなりません。そのため、キャリア・プランニング、OGや各方面で活躍する方々による講演会、指導教員との個人面談など、在学中のその時々に応じた教育、支援を行い、将来に対する意識や知識を高めていきます。また、この授業では、キャリアに特化した内容ばかりではなく、グ



ループワークにより各種課題に取り組みます。課題の実践を通して、自律(自立)性や対人コミュニケーション、マネージメントの方法など、社会人基礎力も養成します。

キャリア支援室を利用した先輩の声

プログラムを活用し、希望の会社に内定が決まった先輩たち。

あなたもキャリア支援室を大いに活用しましょう。(掲載の4名は2016年3月卒業予定)



キャリア支援室で相談

学生でないとできないことに、
全力で取り組むことで他人に自慢できる学生生活を

アイシン精機株式会社 内定

水野 剛志さん

総合政策学部総合政策学科



私は、大学入学当時、高校生まで何事も中途半端なままの自分に嫌気がさし、自分を変えたいと思っていました。それを機に、卒業までの4年間で悔いの残らないような学生生活を送り、この大学で、社会人にもうけて更に成長しようと考え行動するように心がけるようになっていました。学業においては、疑問に思ったことは講義後にすぐに教授の元に質問をしに行き、有志団体に所属しては、ただ楽しい思い出を作るだけでなく、辛い経験もメンバーと共有することで、他では体験することができないであろう大切な思い出と仲間を作ることができました。この経験は就職活動をする上で程よい自信と自分という人間を上手く表現する糧となり、就職に繋がったと思っています。過ごしてみるとあっという間の4年間なので、どんなことでもいいので「4年間で自分はこれをした!」と自信を持って言えるような学生生活を送ってください。

キャリア支援室で相談

支えてくれる環境があったからこそ、
やりたいことを全部、自分らしく頑張れました

日本放送局(NHK) 内定

永井 宏美さん

人文学部日本文化学科



大好きな女子ラクロス部の活動に全てを費やした4年間でした。ほぼ毎日、辛いことも楽しいことも仲間と共有しながら練習し、一つ同じ目標に向かって努力した日々は何にも代え難い大切なものです。ただ、部活動と両立して就職活動を行っていた私は、常に時間に追われていました。そんな忙しい日々の中でキャリア支援室は、自分とじっくり向き合うことのできる貴重な空間でした。静かに集中できる閲覧室では、豊富に揃った資料を参考にしながら、業界分析やエントリーシートの作成をしました。一人で考えられなくなったときには職員の方にアドバイスを頂き、面接に備えたこともありました。南山大学には、自分がやりたいこと、やるべきことをサポートしてくれる環境が整っています。こうした支えがあったからこそ、大好きな部活動と平行して、自分らしく就職活動を行うことができました。

インターンシップに参加

気配りと思いやり、
快適に働くためにも大切だと気づきました

(インターンシップ先)

ANA 中部空港株式会社

ブラザー工業株式会社 内定

永井 杏奈さん

経済学部経済学科



空港のグランドスタッフの業務体験をさせてもらいました。お客様の手荷物受け取りや、車いすをご利用の方のケアを担当しました。働くとはどういうことなのか、自分の目で確かめようと参加したのですが、想像以上に得るものがありました。例えば、周囲への気配りの大切さ、それはお客様に対してだけではなく、社員同士が快適に働くためにも必要でした。また、どのような仕事が自分の性格に向いているのか、自分は将来どのような生活を送りたいのかを生活スタイルまで具体的に考えるきっかけとなりました。インターンシップでのこうした経験は、仕事を通じて深い信頼関係を築けるような職種に就きたいという思いに結実。将来の自分と真剣に向き合わせてくれた大切な経験となりました。相手を思いやり、自ら行動できる社会人に早く成長したいと考えています。

学生就職支援スタッフとして活動

お世話になったアジア学科や南山大学の
先輩方への感謝の気持ちで一杯です

不二製油株式会社 内定

大島 裕介さん

外国語学部アジア学科



4年生以前から、キャリア支援室のプログラムには折に触れて参加していました。その中で、アジア学科の内定者の先輩にお会いする機会に恵まれました。右も左も分からない中、幾度となく相談に乗ってくださる先輩はとても心強い味方でした。また「南山大学卒業生キャリアアドバイザーと在学生の交流会」では、多くの先輩にお話を聞きました。緊張していたのですが、気さくに接していただき、等身大で質問する事が出来ました。私は最後まで気に掛けてくださった先輩方のおかげで、次のステージに進めました。私の学生生活は語学ばかりでしたが、勉強に限らず、強い想いや信念を持って頑張った事なら、必ず気持ちは届くと思います。先輩方にはまだまだ遠く及びませんが、感謝の気持ちを忘れる事なく、皆さんと一緒に成長するためにも、直向きに挑戦し続けたいと思っています。

充実した学生生活がキャリアアップのヒントに

勉強はもちろん、それ以外にも何かに打ち込み充実した学生生活を送ることで、さまざまな可能性が広がります。

目的に向かって考え行動する、その中でキャリアアップのヒントが見つかるかもしれません。



クラブ活動

学部、学年を越えることで さまざまな交流や体験が生まれる

本学では、課外活動を「正課を補充する、教育の一環」として位置づけ、学生の皆さんが、積極的に課外活動に参加することを推奨しています。学部も学年も異なる仲間と一緒に汗を流したり、ひとつのものを創り上げたり、そんな貴重な体験ができるクラブ活動は一生の思い出になります。就職活動の上では、大学時代に打ち込んだこととして自分をアピールする大きな手段にもなります。なお、授業期間中は名古屋・瀬戸の両キャンパスで活動できるようにシャトルバスを運行しています。



アメリカンフットボール



野外宗教劇

Calendar

- 4月：フレッシュマン祭(両キャンパス)
- 5月：文化会フェスティバル
- 6月：上南戦(上智大学との運動対抗戦)
- 9月：リーダーズキャンプ
- 10月：野外宗教劇「受難」
- 11月：大学祭・聖南祭(瀬戸キャンパス)
- 12月：降誕祭
- 3月：リーダーズキャンプ



- お問い合わせ ●名古屋キャンパス ●瀬戸キャンパス
- ▶学生課 ▶第2課学生係(学生生活担当)

留学

世界に広がる交換協定校で 国際感覚を身につける

本学には、学部を問わず留学できるシステムが整っています。留学先大学で修得した単位のうち、上限30単位まで本学での単位として認定申請できるほか、留学期間も在学期間に算入するため4年間で大学を卒業することが可能です。ただし、留学する目的をはっきりさせ、計画・準備を早めに行うことが重要。短期大学部生に関しては、留学システムが異なります。



メキシコ:
Autonomous
Technological
Institute of Mexico



オランダ:Zuyd University

【交換協定校抜粋】

交換留学協定校:19カ国、73大学
1機関あり、その一部

- アメリカ
- ・Arizona State University
- ・Indiana University, Bloomington
- ・Georgetown University
- ・University of Hawaii at Manoa
- ・Purdue University
- ・University of Wisconsin-Madison
- ・University of Massachusetts Amherst
- イギリス・The University of Edinburgh
- フランス・Aix-Marseille University
- ドイツ・Free University of Berlin
- オランダ・Zuyd University
- オーストラリア
- ・The Australian National University
- 韓国・延世大学
- 中国・華東師範大学
- メキシコ
- ・Autonomous Technological Institute of Mexico
- スウェーデン・Stockholm University
- タイ・Thammasat University

留学の種類	交換	推薦	認定
留学先大学	協定校	指定校	自由選択
留学期間	基本的に1年	3ヶ月~1年	3ヶ月~2年
学内選考	あり	あり	なし
留学先授業料	免除	支払	支払
学籍上の扱い	留学	留学	留学
留学奨学金応募	可能	可能	可能

- お問い合わせ ●名古屋キャンパス ●瀬戸キャンパス
- ▶国際教育センター事務局 ▶第2課教務係

短期大学部生に関しては、留学システムが異なります。詳しくは国際教育センター事務局までお問い合わせください。

資格

将来の選択肢をさらに広げる 教員免許、学芸員、司書の国家資格

学校の教員や学芸員、図書館司書などをを目指す学生のために教職課程、博物館学芸員養成課程、司書課程および学校図書館司書教諭課程があります。これらの職業では、各課程で単位を取得し、資格を有することが採用の条件となります。教職課程については、1年次の春に新入生対象教職課程ガイダンスを開きますが、相談は右記窓口で随時行っています。また、教職関連科目は、1年次から履修することが望ましいといえます。



学芸員:博物館実習

■2015年3月卒業生の教員採用者数はP6をご覧ください。

お問い合わせ

- 名古屋キャンパス ▶教務課(資格担当)
- 瀬戸キャンパス ▶教職センター ▶第2課教務係

学内講座

法職特別課外講座(法学部)

公務員試験、法科大学院等に照準を合わせた対策講座で、毎年100名ほどの学生が参加しています。法学部・法科大学院の教員や実務経験豊富な現役司法書士等が指導。憲法、民法、刑法の主要3科目にはベーシックコースがそれぞれ用意されています。また、法学部以外の学生の受講も可能です。

お問い合わせ ●法学部事務局 <http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/HOUGAKU/shinro/koza.html>

会計士講座(経営学部)

会計士講座は、公認会計士や税理士などの資格試験を目指す学生はもちろん、会計を深く学びたいと考えているすべての学生に開かれた団体です。学生たちは、自主的に集まり、教員や先輩の指導を受けつつ情報交換や勉強会、試験前合宿などを行っているほか、本学教員および会計士講座OBとの交流会なども実施しています。また、キャンパス内に講座室があり、運営資金の一部について大学より援助を受けるなど、サポート体制も整っています。

お問い合わせ ●経営学部事務局

南山エクステンション・カレッジ学生向け特別講座 有科講座

社会が大学の卒業生に期待する知的・技能的な水準は年々高まっています。本学の学生が在学中にスキルやキャリアアップを図るための特別講座として、①公務員試験対策講座(総合コース)、②公務員試験対策講座(教養コース)、③教員採用試験対策講座(基礎コース)、④秘書検定準1級対策講座、⑤エアライン就職対策講座を開講。2015年度の受講生数は6講座239名。南山エクステンション・カレッジの講座の特徴は、①低廉な受講料(受講料を専門学校等より低く設定し負担を軽減)、②キャンパス内での受講、③ハイレベルなノウハウを持つ講師陣(実績のある専門機関の講師による直接指導)です。

お問い合わせ ●南山エクステンション・カレッジ事務局 <http://office.nanzan-u.ac.jp/EXTENSION>

大学院進学

さらに専門性を極める

本学大学院は学部における教育の上に、高度にして専門的な学術の理論や応用を研究すると共に、キリスト教世界観に立ち、人間の尊厳を自覚した社会人として、文化の進展と人類の福祉に寄与する人物を養成することを目的としています。

修士課程、博士課程および専門職学位課程を設置。博士課程の標準修業年限は5年、前期2年を博士前期課程、後期3年を博士後期課程といい、前期2年の課程は、修士課程として取り扱います。修士課程は、研究能力または高度の専門性を要する職業に必要な能力を養うことを目的とし、博士課程は、研究者として自立し、研究活動に必要な研究能力およびその基礎となる学識を養うことを目的としています。専門職学位課程は、高度の専門性を要する職業を担う学識および卓越した能力を培うことを目的とし、修了後は研究者はもちろん、高度の専門職業人として各方面から期待されています。

名古屋キャンパス	
人間文化研究科	キリスト教思想専攻 [博士前期課程] 宗教思想専攻 [博士後期課程] 人類学専攻 [博士前期・後期課程] 教育ファンリテーション専攻 [修士課程] 言語科学専攻 [博士前期・後期課程]
国際地域文化研究科	国際地域文化専攻 [博士前期・後期課程]
社会科学研究科	経済学専攻 [博士前期・後期課程] 経営学専攻 [博士前期・後期課程]
理工学研究科	システム数理専攻 [博士前期・後期課程] ソフトウェア工学専攻 [博士前期・後期課程] 機械電子制御工学専攻 [博士前期・後期課程]
法務研究科(法科大学院)	法務専攻 [専門職学位課程]

瀬戸キャンパス	
社会科学研究科	総合政策学専攻 [博士前期・後期課程]

※募集停止の専攻を除く

卒業生の進路状況



主な就職先

●建設業	
大成建設	1/0
清水建設	1/1
大林組	1/1
積水ハウス	0/1
大和ハウス工業	1/0
住友林業	1/1
●メーカー：食品・食料	
森永乳業	0/1
キュービー	0/1
サントリーホールディングス	1/1
カゴメ	1/0
キリン	0/1
●メーカー：印刷	
凸版印刷	1/1
●メーカー：化学・医薬・化粧品	
アイカ工業	1/0
ホーユー	0/2
エーザイ	0/1
武田薬品工業	0/1
●メーカー：鉄鋼業・金属製品・金属加工品	
愛知製鋼	1/0
新日鐵住金	0/1
大同特殊鋼	2/0
パロマ	0/2
LIXIL	1/0
●メーカー：一般機械・産業機械	
三菱重工業	1/1
マキタ	1/0
カシオ計算機	0/1
ヤマザキマザック	2/2
オークマ	1/0
DMG森精機	1/2
CKD	2/2
●メーカー：電気機械・情報通信機械器具	
富士通	0/1
パナソニック	3/0
日立製作所	2/0
三菱電機	2/0
パッパロー	1/1
ブラザー工業	0/1
●メーカー：自動車・輸送機器	
豊田自動織機	0/2
豊田合成	1/0

(2014年度 抜粋) (2015年4月1日現在)就職先企業名 ■男子 ■女子

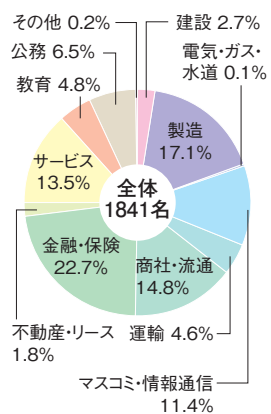
住友電装	1/2
アイシン・エイ・ダブリュ	6/7
スズキ	1/2
トヨタ自動車	0/4
デンソー	3/8
本田技研工業	1/1
ヤマハ発動機	0/4
アイシン精機	2/8
アドヴィックス	2/1
●メーカー：家具・装備品	
タカラスタンダード	2/0
●メーカー：プラスチック製品・窯業・土石・セラミックス・ガラス・その他	
小島プレス工業	1/1
日本特殊陶業	0/5
日本ガイシ	0/3
タカラトミー	1/0
ソニーミュージックグループ	1/0
●電気・ガス・熱供給・水道業	
中部電力	0/1
●情報通信：出版・新聞	
朝日新聞社	0/1
中日新聞社	1/4
読売新聞 大阪本社	0/1
毎日新聞社	1/1
●情報通信：ソフトウェア・情報処理・情報サービス	
日本アイ・ピー・エム	0/1
TIS	5/2
トヨタコミュニケーションシステム	4/2
マイナビ	1/3
豊通システム	3/1
オービック	2/0
中電シーティーアイ	1/3
エイチーム	1/0
日立ソリューションズ	2/2
トヨタデジタルクルーズ	1/2
サイバーエージェント	0/1
楽天	1/1
●情報通信：通信業	
KDDI	1/1
西日本電信電話	0/1
NTTドコモ	1/0
●情報通信：放送業	
日本放送協会 (NHK)	1/1
CBC テレビ	0/1

●運輸	
名古屋鉄道	1/0
東海旅客鉄道 (JR 東海)	0/2
日本通運	3/0
西日本旅客鉄道 (JR 西日本)	1/0
日本航空	1/3
全日本空輸 (ANA)	0/5
近鉄エクスプレス	0/2
郵船ロジスティクス	0/4
JAL スカイ	0/4
ANA エアポートサービス	0/1
名港海運	3/5
日本トランスシティ	1/3
豊通物流	1/1
●商社・流通	
興和	1/2
豊田通商	0/2
三井物産	1/0
オンワード樺山	1/0
瀬定名古屋	1/2
豊島	0/5
スズケン	1/1
日通商事	0/2
岡谷銅機	0/3
阪和興業	1/1
八神製作所	5/3
サンゲツ	1/1
ジェイアール東海高島屋	1/0
名古屋三越	1/1
大丸松坂屋百貨店	1/1
●金融：銀行・信託銀行	
大垣共立銀行	6/26
十六銀行	10/2
りそな銀行	2/1
三菱東京UFJ銀行	5/39
三菱UFJ信託銀行	0/1
百五銀行	7/3
三重銀行	3/0
中京銀行	4/12
名古屋銀行	5/8
三井住友銀行	3/7
みずほフィナンシャルグループ	0/3
ゆうちょ銀行 (日本郵政グループ)	1/5
りそなグループ (りそなホールディングス)	1/0
三井住友信託銀行	0/4
●金融：信用金庫・労働金庫	
岡崎信用金庫	7/3
豊田信用金庫	5/4

愛知県信用農業協同組合連合会 (JAバンク愛知県信連)		3/0
碧海信用金庫	2/4	
東海労働金庫	2/3	
商工組合中央金庫	4/3	
●金融：証券業		
大和証券	3/1	
野村證券	1/2	
三菱UFJモルガン・スタンレー証券	0/1	
●金融：農協・漁協・政府系		
全国農業協同組合連合会	1/0	
なごや農業協同組合	1/0	
日本政策金融公庫	1/0	
●金融：クレジット・投資		
トヨタファイナンス	0/14	
愛知県信用保証協会	1/0	
●金融：生命保険・損害保険		
日本生命保険	0/3	
かんぽ生命保険 (日本郵政グループ)	0/2	
愛知県農業共済組合	0/1	
全国労働者共済生活協同組合連合会 (全労済)	0/1	
損害保険ジャパン日本興亜	0/23	
あいおいニッセイ同和損害保険	0/15	
三井住友海上火災保険	0/25	
東京海上日動火災保険	0/17	
●不動産・リース		
名鉄協商	1/1	
積和不動産中部	3/0	
●サービス		
有限責任トーマツ	0/2	
ジェイアール東海ホテルズ	0/1	
星野リゾート・マネジメント	0/1	
エイチ・アイ・エス	0/1	
ジェイアール東海ツアーズ	0/3	
ANA 中部空港	0/3	
JTB 中部	1/2	
Plan・Do・See	0/1	
日本赤十字社 愛知県支部	0/1	
豊田田 刈谷豊田総合病院	2/1	
日本郵便 (日本郵政グループ)	7/25	
中部国際空港旅客サービス	0/2	
日本年金機構	1/3	
公益名古屋国際センター	1/0	

●教育	
愛知県教育委員会	5/11
名古屋市教育委員会	0/1
南山学園	1/0
愛知県公立大学法人	0/1
国立大学法人名古屋大学	0/2
●公務	
国税専門官	1/2
東海財務局	0/1
名古屋法務局	1/1
愛知労働局	1/2
名古屋高等裁判所	0/2
経済産業省	0/1
愛知県警察本部	4/0
愛知県人事委員会	7/8
名古屋市人事委員会	5/2
名古屋市消防局	3/0
岐阜県人事委員会	3/1
岡崎市役所	0/2
半田市役所	1/1
桑名市役所	1/2
【数理工学情報研究科】	
オークマ	1/0
富士通	1/1
住友電装	1/0
アイシン・エイ・ダブリュ	2/0
デンソー	1/0
アイシン精機	2/0
マツダ	1/0
中部電力	1/1
TIS	1/0
トヨタコミュニケーションシステム	1/0
日立ソリューションズ	1/0
西日本電信電話	1/0
【南山大学短期大学部】	
村田機械	0/2
アデン	0/2
ブラザー工業	0/4
アイホン	0/1
中部電力	0/2
日本通運	0/2
三陽商会	0/1
ブラザー販売	0/2
十六銀行	0/1
百五銀行	0/1
愛知県農業協同組合中央会	0/2
ジェイアール東海ホテルズ	0/1

業種別就職状況



学科別進路状況

南山大学

学部	学科	建設業	製造	水道	電気・ガス・水道	情報通信	運輸	商社・流通	金融・保険	リース	不動産・リース	サービス	教育	公務	その他	男子自計	女子自計	総合計	進学男子	進学女子	進学合計
		人文	キリスト教	0/0	0/2	0/0	0/2	0/0	0/6	0/2	0/0	0/6	1/1	1/1	1/1	1/1	0/0	2	20	22	3
	人類文化	3/1	5/15	0/0	1/2	3/3	6/11	1/19	0/2	3/14	4/3	3/5	0/0	29	75	104	1	0	1		
	心理人間	0/1	2/7	0/0	3/11	0/2	6/9	0/29	0/0	4/24	1/7	5/3	0/0	21	93	114	3	5	8		
	日本文化	0/3	5/6	0/0	1/2	0/4	1/8	4/13	0/4	3/12	2/8	2/4	0/1	18	65	83	0	1	1		
外国語	英米	0/0	7/35	0/0	1/9	1/21	3/18	4/26	1/2	1/31	5/19	1/1	0/0	24	162	186	1	3	4		
	スペイン・ラテンアメリカ	1/0	5/9	0/0	0/4	3/5	2/8	0/6	0/1	1/5	0/0	0/1	0/0	12	39	51	1	1	2		
	フランス	0/1	1/6	0/0	1/4	1/5	0/7	0/1	0/0	0/10	0/0	0/0	0/0	3	34	37	0	4	4		
	ドイツ	0/1	1/12	0/0	0/3	0/3	2/10	1/11	0/1	2/7	0/1	0/2	0/0	6	51	57	0	1	1		
	アジア	0/0	2/17	0/1	1/6	2/6	1/7	1/3	0/1	0/8	0/1	0/0	0/0	7	50	57	1	1	2		
経済	経済	6/2	30/15	0/0	13/13	4/2	24/7	27/53	3/1	12/14	1/1	11/3	0/0	131	111	242	1	3	4		
経営	経営	2/2	20/19	0/0	8/8	3/2	18/12	17/48	5/1	7/18	2/2	5/5	3/0	90	117	207	2	1	3		
法	法律	4/7	19/6	0/0	3/5	2/1	22/11	23/46	2/2	8/11	3/3	25/19	0/0	111	111	222	6	0	6		
総合政策	総合政策	5/5	31/19	0/0	8/9	5/5	24/37	21/52	6/1	8/21	5/8	11/6	0/0	124	163	287	1	4	5		
数理工学	情報システム数理	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	2/0	0/0	0/0	0	2	2	0	0	0		
	ソフトウェア工学	0/0	2/2	0/0	28/8	0/4	0/2	0/0	5/0	0/0	0/0	0/0	0/0	43	10	53	16	0	16		
	システム創成工学	3/0	6/1	0/0	20/6	1/0	3/0	2/0	0/0	6/1	0/0	0/0	0/0	41	8	49	20	1	21		
	情報システム数理	2/0	5/2	0/0	24/6	0/5	0/4	2/0	0/5	0/8	2/2	1/0	0/0	55	13	68	5	1	6		
合計		26/23	14/173	0/1	112/98	25/59	12/51	107/311	17/16	67/182	32/56	68/51	3/1	719	1122	1841	41	2	43		
英語科		0	16	2	0	4	21	5	3	15	3	0	0	69	69		39	39			

卒業生の教員採用者数

※採用者数:常勤講師 (雇用期間1年以上)を含む

学部	公立学校教諭										私立学校教諭										合計		
	高校国語	中学国語	高校英語	中学英語	高校社会	中学社会	高校数学	中学数学	高校理科	中学理科	小学校教諭	その他	高校国語	中学国語	高校英語	中学英語	高校社会	中学社会	高校数学	中学数学		その他	
人文	0/3	1/4	0/0	0/0	1/1	1/1	0/0	0/0	0/0	0/4	1/0	1/0	0/1	0/0	0/0	1/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	6/14	20
外国語	0/0	0/0	2/3	0/1	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/1	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	1/5	0/1	0/0	0/0	0/0	0/0	3/11	14
経済	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0
経営	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0
法	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/1	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/1	1
総合政策	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	1/0	0/0	0/0	0/0	0/2	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	1/0	1/1	0/0	0/0	0/0	3/3	6
数理工学	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	1/0	1/1	1/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	1/1	8/2	10
合計	0/3	1/4	2/3	0/1	1/1	2/1	1/0	1/1	1/0	0/8	1/0	1/0	0/1	1/5	0/1	2/0	1/1	3/0	1/1	1/0	20/31	51	

(データは2014年度) (2015年4月1日現在)

操作方法 まずは「PORTA」にログイン

1 PORTAのログイン画面から、
大学で登録したAXIAアカウント、
パスワードを入力して
ログインしてください。

※AXIAアカウントは学生番号の西暦4桁の
上2桁を省略し、学科のアルファベットを
小文字に変換したものです。
(例:2016EE000 ⇒ 16ee000、
J2016TE000 ⇒ j16te000)

2 ポータルのトップメニューから
「学生メニュー」をクリック。

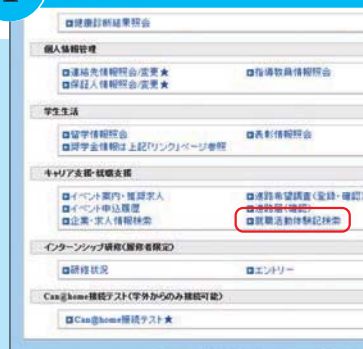
3 スクロールして、
「キャリア支援・就職支援」メニューへ。
6つのタブを利用できます。

※[インターンシップ研修]履修生は、
「インターンシップ」メニューを利用します。



機能概要 就職活動体験記を検索する

「キャリア支援・就職支援」メニューの
「就職活動体験記検索」をクリック。
先輩の就職活動体験記(2,600件程度)を
フリーワード(企業名の一部や「一般職」、
「エントリーシート」等のワード)で
自由に検索できます。



2

体験記検索

キーワード検索

検索

体験記一覧

全270件 表示件数 1-20件

(株)三井住友銀行

2015年度	職種	業種コード
内定先	三井住友銀行	20101
学科/専攻	外国語学部/英米学科	性別
応募種別	自由応募	雇用形態
	一般職	内定日

<企業情報>
【企業を選んだ動機・理由、情報源など】：
人々経済を憂へ銀行は人様が大切であり人様が笑顔でまらえるサービス業である

問い合わせ先

**名古屋キャンパス
キャリア支援室**

〒466-8673
名古屋市長和区山里町18

Phone 052-832-3122
Fax 052-835-1476
E-mail career-office@nanzan-u.ac.jp

【利用時間】
月曜日～金曜日
AM9:00～PM5:00

**瀬戸キャンパス
キャリア支援室**

〒489-0863
瀬戸市せいでい町27

Phone 0561-89-2017
Fax 0561-89-2021
E-mail career-office@nanzan-u.ac.jp

【利用時間】
月曜日～金曜日
AM9:30～PM5:30



南山大学

キャリア支援室 <http://office.nanzan-u.ac.jp/CAREER/>

南山大学キャリアサポート委員会規程

(目 的)

第1条 学生に将来の夢や目標を持たせるための動機付けをし、職業観を育てるための支援としてキャリアサポートプログラム（インターンシップ研修を含む。以下同じ。）を実施し、その円滑な運営、推進を図ることを目的として、南山大学キャリアサポート委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(管掌事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を管掌する。

- 1 キャリアサポートプログラムの企画・運営等に関する事項
- 2 キャリアサポートプログラムの評価、見直し等に関する事項
- 3 キャリアサポートプログラムに関連する学内・学外組織との連絡・調整に関する事項
- 4 キャリア相談に関する事項
- 5 その他、キャリア教育推進に関する事項

(委員会の構成)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- 1 各学部選出の教育職員 各学部1名
- 2 学生部次長（課外活動担当）
- 3 キャリア支援室長
- 4 教務課長
- 5 学長の指名する教育職員 1名
- 6 学長の指名する事務職員 1名

(委員長、副委員長)

第4条 委員長および副委員長は、大学評議会の議を経て、学長が委嘱する。

- ② 委員長は、会務を主宰し、委員会を代表する。
- ③ 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代行する。

(任 期)

第5条 委員長、副委員長および委員の任期は2年とする。ただし、補充された委員の任期は前任者の残任期間とする。

- ② 委員長、副委員長および委員は、再任を妨げない。

(事 務)

第6条 本委員会に関する事務は、学務部キャリア支援室が担当する。

附 則

- 1 この規程は、2007年4月1日から施行する。
- 2 この規程の施行にともない南山大学キャリア教育推進委員会規程（2005年3月1日施行）および南山大学インターンシップ委員会規程（平成11年4月1日施行）は、廃止する。

附 則

この規程の改正は、2015年4月1日から施行する。

南山大学就職委員会規程

(目 的)

第1条 南山大学就職委員会（以下「本委員会」という）は、学部学生および大学院学生（以下「学生」という）に対し第3条に定める管掌事項の企画・推進を通じて適切な職業指導を行なうことを目的とする。

(組 織)

第2条 本委員会は、次に定める委員長および委員をもって組織する。ただし、必要のある場合は副委員長をおくことができる。

- 1 委員長は、大学評議会の議を経て、学長が委嘱する。
- 2 委員は、各学部1名ないし2名を委員長および当該学部長が協議の上決定し大学評議会の議を経て、学長が委嘱する。
- 3 学生部次長1名およびキャリア支援室長は職責上の委員となる。

② 前項ただし書による副委員長は、委員長の推薦にもとづき大学評議会の議を経て、学長が委嘱する。

(管掌事項)

第3条 本委員会は、次の事項を企画・推進する。

- 1 職業指導上必要な学生に関する情報資料の収集
- 2 一般企業・官公庁および教育機関等の採用に関する情報の収集と学生への伝達
- 3 新規職業分野の継続的開拓
- 4 既開拓職業分野における密接な関係維持
- 5 職業指導に関する広報活動
- 6 予算案作成
- 7 その他学生の職業指導に必要な事項

(委員長の職責)

第4条 委員長の職責は、次のとおりとする。

- 1 委員会の招集
- 2 委員会決議事項の執行
- 3 委員会管掌事項に関するキャリア支援室への指導・助言ならびに監督

(副委員長の職責)

第5条 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代行する。

(任 期)

第6条 委員長・副委員長および委員の任期は2年とし、その期限は4月1日より翌々年3月末日までとする。ただし重任をさまたげない。

附 則

この規程は、昭和42年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、昭和51年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、昭和57年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、昭和59年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、2015年4月1日から施行する。